

| | |
|--------------------|--|
| Title | 被差別部落に対する忌避的態度と敵対的態度：Lisrel による分析 |
| Author | 野口, 道彦 |
| Citation | 同和問題研究：大阪市立大学同和問題研究室紀要. 12 卷, p.101-147. |
| Issue Date | 1989-03 |
| ISSN | 0386-0973 |
| Textversion | Publisher |
| Publisher | 大阪市立大学同和問題研究会 |

被差別部落に対する忌避的態度と敵対的態度

—— Lisrelによる分析 ——

野 口 道 彦

1. 理論的背景

〔1-1〕課題の設定

部落に対する差別意識のうちから〔忌避的態度〕と〔敵対的態度〕をとりあげ、これらを規定する要因群との因果関係をモデル化し、この理論モデルの妥当性を市民意識調査によって得られたデータで実証的に検討するのが、この小論の課題である。

ここで、われわれが分析の対象とするのは、個人の態度としての部落に対する差別意識である。差別意識と一口にいても、さまざまなものが含まれる。たとえば、(a)部落および部落民をカテゴリカルに捉え、多様性や差異に気づかない態度、(b)部落および部落民に対するネガティブなイメージ^(注1)、(c)部落民と「われわれ」とは違った存在、共通の世界を共有しない「異質な存在」として意味づけるしかた^(注2)、(d)部落を忌避する態度、(e)部落に対する攻撃的態度、(f)部落差別の解決の取組に対して冷淡・無関心な態度、(g)差別の存続の原因を差別される側に求める思考回路など。これらは、差別意識の強弱の点でも、中心的一周辺のという点でも、それぞれに異なっている^(注3)。

ここでは、これらの差別意識の全貌を明らかにすることはしないが、①差別意識は、さまざまな構成要素群からなりたつ星雲のようなものであること、②人によって、構成要素ごとの差別意識の濃淡は異なること、つまり差別意識は多元化していること、③さまざまな差別意識のうち、どのような要素をとりあげるのかによって、影響を及ぼす要素も異なることを、この小論の前提として明記しておく。

こうした前提にたてば、差別意識は何によって生まれてくるのかという問い

に答えるためには、まず、差別意識のなかで、どの要素を問題にしているのかを明確にすることから始めなくてはならない。

注1 差異が存在しなくても、仮想に基づいて差異がでっちあげられる。事実に基づいた差異は、誇張され拡大され、ネガティブな意味が付与される。ネガティブといい、マイナス・イメージといわないのは、dominantな社会層・集団のもつ価値観・規範の裏返しという意味を強調するためである。

注2 「われわれ」とマイノリティ・集団との差異を認識することそれ自体は、差別意識ではない。差異の認識が差別意識になるのは、差異にある特定の意味を付与することによってである。特定の意味というのは、抽象的レベルで表現すると、共通の世界を共有しない「異質な存在」としての意味づけのこと。つまり、「われわれ」の社会での価値観・規範を共有しない存在として、共通の体験や感情の共有を遮断してしまっていて、相手をとらえている場合である。こうした意識は、意識の深い層にもたれており、自覚化されていない場合が多く、ドロドロした生理的感覚のようなものであって、明確には言語表現できない。ましてや、質問紙調査ですぐいとるのは、極めてむずかしい。江嶋修作、「差別意識の構造」、『社会同和教育変革期』、1985年、明石書店。

注3 認知次元での、カテゴリーカルな見方、差異性の認識は、それ自体では、差別意識にはならない。それが差別意識となるには、Simpson, G. E. と M. J. Yinger, が指摘しているように、硬直した性質をもつとともに、感情的な要素、ある方向性をもった行為的な要素を同時に含んでいる場合である。Simpson, G. E. and M. J. Yinger, *Racial and Cultural Minority*, 4th ed., 1972

〔1-2〕差別意識の二つの要素

さて、ここでとりあげるのは、〔部落を忌避する態度〕と、〔部落への敵対の態度〕の二つである。

〔敵対的態度〕(antagonism)は、古今東西、マイノリティ・集団一般に対してもたれる態度である。Edna Bonacichは、“antagonism”を、イデオロギーや信念(人種差別主義、偏見など)、行動(差別行動、リンチ、暴動など)、制度(隔離を温存する法律など)など集団相互のあらゆるレベルの葛藤を包含する言葉として使っている。彼女は、差別意識や差別に代わる言葉として、“antagonism”を用いるが、その理由は、葛藤をdominant group側から生みだされていると前提し、差別概念が道徳的意味あいや理論的前提をもった概念に

なっているとして退け、それに対して“antagonism”は、葛藤が相互作用の所産である可能性を残した概念であるとして、用いている。

しかし、行動や制度の側面をふくめるBonacichの用法は、イデオロギーや行為、制度などを含み、かえって概念を拡散させることになり、よくない。

「敵意」は、感情、イデオロギーや信念の次元に限定し、行動や制度の次元を含めない方がよいだろう^(注1)。

さて、差別意識を二つの側面でもとりあげたのであるが、〔敵対的態度〕を、〔忌避的態度〕と対照的な意味をもつものとして強調しておきたい。〔敵対的態度〕は、マイノリティー集団に対する能動的・攻撃的な性質をもつ態度であるのに対して、〔忌避的態度〕は、マイノリティー集団との接触を避けるという消極的な態度である。「敵対」が相手に「憎しみ」の感情を抱くのに対して、「忌避」は「おそれ」の感情を抱く。相手から遠ざかるという消極的なこの態度は^(注2)、今日の部落問題にとって非常に顕著な現象である。欧米におけるマイノリティー集団に対する差別意識が攻撃的な性格をもつものが多いのと、極めて対称的である^(注3)。

注1 Edna Bonacich, “A Theory of Ethnic Antagonism : The Split Labor Market,” American Sociological Review 37, no. 5, (October 1972)

注2 もちろん、このような比較は、極めて乱暴な単純化であって、部落問題の場合、「敵対」が支配的になる場合も少なくない。明治初期の解放令反対一揆に参加した農民層のもっていた態度や大正14年の群馬県世良田村襲撃事件など歴史的な事件は、その典型的なものであるが、最近においても、匿名でなされる差別落書きには、部落に対する憎悪が露骨に表現されているものが多い。

注3 〔忌避的態度〕が消極的な性格をもつといっても、与える影響は〔敵対的態度〕より軽微であるというわけではない。人としての尊厳を侵す度合いにおいては、〔敵対的態度〕となんら変わることはない。

〔1-3〕二つの差別意識の成立基盤

攻撃的か、消極的かという性格の違いだけではなく、これらの態度がもたれるようになった原因には、質的な違いがあるだろう。あえて単純化して述べると、〔忌避的態度〕は、自然発生的に生まれるというよりは、文化的に学習さ

れたものであり、社会規範の指示から生まれていると見た方がよいだろう。社会規範・価値体系は、ある集団に対してどんな態度をとるのがふさわしいのかというコードを含んでいる。

インドのカースト制度は、他のカーストにどう対処すべきかの詳細な取り決めをもち、特定のカーストとの同火、同食、結婚を禁止するよう命じていた。この例を思い出せば、わかるように、支配的な文化・価値観を内面化しているものほど、被差別集団を忌避するということがいえるだろう。「忌避」の行動を命じる規範の背景には、対象集団についてのさまざまな意味づけがなされている。こうした価値・規範は、当然のことながら学習される。したがって、こうした価値規範を共有しない異邦人にとっては、なぜ、ひとびとが特定の集団を忌避するのか、その理由は理解しがたいものである。

他方、「敵対的態度」は、こうした文化的なものに基づくというよりは、集団間の関係、すなわち権力、富・収入、地位、威信をめぐる闘争の背景にある。もちろん、「敵対的態度」も文化的に学習される側面も否定できないが、どちらかという、状況依存的な側面がつよいだろう。

〔1-4〕二つの差別意識と競争社会

〔敵対的態度〕は、他者を収奪し、自らの利益を得る行為に結びつきやすい、〔忌避的態度〕は、仲間内での地位を保持するために、防衛的にとる行動に結びつきやすい。

〔忌避的態度〕は、地位意識が顕著な社会で多くもたれる^(注1)。ここでいう地位意識は、身分意識と区別されたものである。身分意識は、役割(身分)と役割の配分原理(生得的属性)との関係の正当化を主張するさまざまな意識といえるだろう。

前近代の身分社会では、身分が生得的な属性によって決定されていた。それを正当化するため、生まれや血筋に神秘的な価値をおくイデオロギーが生まれ、階層移動を原則として認めないから、「分をわきまえる」、「身のほどをわきまえること」、「分をしる」ことが奨励され、「分際にすぎたる振る舞い」は禁止された。身分意識は、こうした社会規範を内面化した秩序感覚をいう。

部落差別は、その歴史的背景から、身分意識と関連されて説明されることが

多い。だが、封建的な身分意識が、そのまま今日も残存していると考えられることには、無理がある。階層移動が盛んになったから、もはや身分意識にもとづく差別意識はなくなったとみるのではなく、階層移動の盛んな社会になって、差別意識は新たに変容した形態をとって、現代社会の人々の行動に影響を与えているとみた方がよいだろう。このアプローチによって、今の社会になぜ部落差別が執拗に存在しているのかを解明する手掛かりが得られるだろう^(注2)。

では、どのように変容したのか。ひとことでいえば、身分意識から地位意識への変容である。近代の社会は、階層による不平等社会であるが、その不平等も、どのような社会的な地位も全てのものに開かれているというタテマエで、正当化されている。地位の上下に対する尊敬や蔑視は、身分社会と同様にあるとしても、階層や地位が、法的な裏付けをもち、流動的なために、社会的地位への態度は人によってさまざまに異なる。ある者は、微細な地位の上下に敏感で、少しでも高い地位を獲得することに大きな価値を置く。その一方では、そんな事に頓着しないひと、あるいは地位の上下のひらきもそれほど大きくはないと見ている人など、社会的地位への意味づけのしかたも、一様ではない。

地位意識の顕著な社会というのは、階層や地位のヒエラルキーが人びとによって認識され、地位の上昇をはかることに重要な価値が置かれている社会である。地位のヒエラルキーは、収入や財の多寡、権力の有無だけではなく、人からの評価をも含んでいる。

地位意識の顕著な社会では、歴史的に差別されてきた集団に、低い格付けを与えた。こうした社会では、ネガティブな意味を付与されたマイノリティ集団と、ある許容度をこえて親密な接触をしたとき、社会的地位を下落させるというサンクションを働かせることがある。このようにいくつかの条件が重なったとき、地位意識の顕著な社会では、マイノリティ集団に対して〔忌避の態度〕がもたれる。

他方、競争が激しい社会では、当然のことながら競争に勝つことができないものを生み出す。そうした競争から疎外され排除されたものは、その怨念をなんらかの形で解消する必要がうまれる。それはある場合は支配的と価値・規範体系とは異なったサブカルチャーとなって形成される^(注3)。しかし、サブカルチャーを形成する基盤がない場合、たとえば、人びとが孤立分断されている場

合、そうしたものは、個人的な形で怨念を解消する必要がある。その一つが支配的な価値・規範からネガティブに意味づけられたマイノリティ集団に対して敵意となって表現されるものである。解放会館などに百回以上の差別電話をかけ続けていた『連続差別電話事件』（1985年）の犯人のライフストーリーは、それを物語っている^(注4)。また、1982年、デトロイトでおこったビンセント・チン殺害事件も、その典型だろう。日本の自動車輸出攻勢に押され、工場閉鎖・労働者の解雇の続くデトロイトで、日本人に反感をもつ自動車工場の労働者親子が、ゴーゴー・バーに入ってきた中国系アメリカ人を日本人と間違え、追い掛けまわしたすえ野球のバットで殴り殺すという事件であった^(注5)。

アドルノたちが指摘したように、権威主義的パーソナリティをもっていると、不満の矛先はマイノリティへ向けられやすい^(注6)。この白人親子が、どのようなパーソナリティをもっていたのかは不明だ。しかし、なにも権威主義的パーソナリティによって説明しなくても、「われわれの失業が日本製自動車のダンピング攻勢によって引き起こされた」という言説がもっともらしさをもって語られる状況では、失業者の不満が、日本（日系アメリカ人、日本人、日本の自動車産業の区別することなく、さらには、日系アメリカ人と他のアジア系との区別もできず、日本なるもの）に対する敵意に結びついていくことは、容易に想像できる。限られた資源・機会を巡ってマイノリティ集団と競合している状況では、〔敵対的態度〕が優位になるのは容易に推測できる。

こうしたことから推論すれば、二つの態度と、階層との関係で、興味ぶかい仮説が導きだされる。〔忌避的態度〕は、階層的に上昇しようとするグループに顕著にみられ、〔敵対的態度〕は、階層的にはマイノリティと同じか、階層的に下落したグループに顕著にみられるだろう^(注7)。

〔忌避的態度〕と〔敵対的態度〕の生み出される社会的条件やその特質については、さらに検討していかなければいけないが、ここでは差別意識を構成するこれら二つの要素が、質的に違ったものであることを確認できれば充分である。

注1 H. M. Blalockは、差別行動を動機づけるものとして〔地位意識〕と〔有限な資源をめぐる競争〕を考え、両者は異なった予測を導くとしている。

Blalock, Hubert M, Jr., *Toward a Theory of Minority-group Relations*, 1967

Blalock, Hubert M, Jr., *Race and Ethnic relations*, 1982

- 注2 「地位意識」も「身分意識」も英語に訳せば、同じ *status consciousness* になる。歴史的段階や社会構造の特質を無視すれば、社会における位置についての序列の認識とその秩序体系への態度ということになるが、その位置が生得的属性によって決定されるのか、それとも獲得的的属性によって決定されるのかで、「身分意識」と「地位意識」とを区別しておく。歴史的には、前者は、前近代社会、後者は近代社会になる。
- 注3 ある場合は、対抗的なサブ・カルチャーが、ある場合は、対抗的とまではいえないが、支配的な文化とは少しずれたサブ・カルチャーが形成される。
H. Rodmanの“value-strech”理論。Hyman Rodman, “The Lower-class value stretch”, *Social Forces*, 42, pp. 205~215
- 注4 「連続差別電話事件糾弾要綱」、「あいつぐ差別事件、1986年」、部落解放同盟大阪府連合会編、1986年 9月
- 注5 “Conviction in Vincent Chin killing overturned”, *Breake Silence*, voll, nol, 1986, *Breake Silence*は、アジア系市民に対する暴力の問題をとりあげている市民組織の機関誌である。
- 注6 T. Adorno et al. *The Authoritarian Personality*, 1950 : 田中義久 他訳『権威主義的パーソナリティ』、青木書店
- 注7 M. J. Yinger, *Racial and Cultural Minority*, 4th ed., 1972及び, 5th ed., 1982

2. 差別意識を生み出す要因

〔忌避的態度〕と〔敵対的態度〕を生み出す背景は、以上のように仮説的に想定される。部落に対する差別意識のありようは、他の差別意識と同様に、資源の不平等な分配、教育や地位獲得への機会の不均等、これらをめぐる階級・階層・地域間の闘争・葛藤、さらには、歴史的蓄積、価値・規範体系など、個人をこえた社会的構造要因によって、大きく規定されている。とはいえ質問紙調査によってえられるデータは、「今」（1980年代の）、「ここで」（西日本）といった時間と空間に限定されたデータであり、個人の意識という断面で切り取ったデータである。そして質問紙で把握できる職業や収入、年令、教育程度などで、差別意識が、規定されるほど、差別意識は単純なものではない。

したがって、ここで〔忌避的態度〕や〔敵対的態度〕を生み出す構造を解明

するといっても、個人の態度というマイクロな変数をマクロな変数で説明するという方法をとるのではなく、マクロな変数を一定とした上での、部落に対する市民の態度を各個人の意識というマイクロな変数で説明するというやりかたになる。いわば、意識の内部構造の解明である。

さて、〔忌避的態度〕と〔敵対的態度〕を説明する変数として、つぎの7つをとりあげた。それらを簡単に説明しておこう。

①〔共感性〕

差別される者に対する痛みの共感、差別するものに対する嫌悪感をいう。差別された悔しさに共感するものは、差別的態度を自覚的にはとらないだろうし、また差別する醜さ、イヤラシさを肌で感じるものは、部落に対して忌避的な態度をとらないだろう。

②〔自己との関係性の認識〕

自己と部落問題との関係をどのように意味づけているのか。これは、部落との地理的な近接性とも違うし、また部落出身者とどの程度、親しい付き合いをしている（していた）かという社会的距離とも区別される^(注1)。いわば、部落問題が自己の存在や生き方とどのように関連しているのかについての認識である。部落出身者と親しい付き合いをしているからといって、必ずしも、自己と部落問題との関係性を認識しているわけではない。

③〔部落問題についての認識〕

何が差別であるととらえるかは人によって随分ちがう。当然のことながら、これは許容される行為だととらえている人は、無自覚なままに差別行為を行うことになる。この点に注目して、今までの同和教育や啓発活動は、何が差別なのかという認識を深めることに重点がおかれていたといえよう。しかし、知的レベルの認識と、感性的な受けとめ方とは異なり、感性的なレベルでの働きかけが重要であることが指摘されるようになった^(注2)。ここでの〔部落問題についての認識〕は、従来の同和教育や啓発活動が目標としてきた「部落問題の正しい認識」をもっている人と、そうでない人との区分する尺度である。

④〔寝た子意識〕

寝た子を起こすなという意識は、根強い。一言でいえば、部落問題を問題としてとりあげ顕在化することへの反発である。

この意識も、さまざまなレベルのものがある。部落を識別するシンボルが不可視であるために素朴にもたれている意見。差別そのものの存在を、認めたくないという意識からでているもの。この意識は、同和教育への取り組みや、同和行政への反対となって出てくる。差別意識に親近性をもつと予想されるが、これは差別意識とは一旦区別して考えた方がよい。

⑤〔状況認識〕

これは、部落に対する差別がどの程度根強く存在しているかについての認識をいう。この認識のしかたは、各人の体験の相違によるだけではなく、主観的な要素も含みこんでいる。同じ情報を得ていても、感受性の違いによっても、差別の厳しさの受け止め方には違いがでてくる。

⑥〔権威主義的攻撃〕

これはT. Adornoたちが、権威主義的服従などとともに権威主義的パーソナリティを構成する因子としてあげたものである^(注3)。T. Adornoたちは、権威主義的パーソナリティを、差別意識を受け入れやすいパーソナリティ特性として析出したのである。これと差別意識との密接な関係は、数多くの追試によって確認されている。しかし、彼らが権威主義的パーソナリティとしたものは、一次元的なものではなく、少なくとも9つの構成要素を含んでいる。したがって、他の要因との因果関係を分析するためには、権威主義的パーソナリティという多元的な要素の複合体を一つのものとして扱うよりも、構成要素を分離した方がよい。そこで、〔権威主義的攻撃〕をとりあげた。〔権威主義的攻撃〕は、「自分が容認している権威に対して現実には何の批判も口にすることができないような因習主義者が、〔その権威の〕諸価値に反する人々を非難し、排除し、懲罰したいという願望をもつようになる」ことから生まれる。「自分が内集団の権威に対して攻撃を加えることが心理的にできない」から、他人のうちに不道徳な属性をみだして、攻撃するのである。こうした特性は、権威主義の他の構成要素のなかでも、もっとも〔敵対的態度〕を生みだすものと考えられる。

⑦〔剥奪感〕

自分が社会から疎外され、享有して当然な豊かさを、自分一人だけ享有していないという思い。この社会あるいは他者から、剥奪をされているという思いは、フラストレーションを生み出し、他の弱者に転移され、敵意となって発散される可能性が強い。この〔剥奪感〕は、〔敵対的態度〕を生み出す。しかし、〔忌避的態度〕とは無関係だろう。

以上の7つの要因が、〔忌避的態度〕や〔敵対的態度〕を説明する要因としてとりあげたものである。はじめの5つは、部落問題に直接関係する意識であるが、あとの2つは、社会一般の構造的な矛盾から派生してくる意識である。これら7つの説明変数と、2つの従属変数との関係を図示したものが、図1である。

注1 野口道彦、「“部落”への意味づけの諸類型と差別意識との関係」、『同和問題研究』第7号、1984年、大阪市立大学同和問題研究会

注2 野口道彦、「同和教育の諸タイプとその効果」、『同和問題研究』第8号、1985年、大阪市立大学同和問題研究会

注3 T. W. Adorno et al. The Authoritarian Personality, 1950；田中義久他訳『権威主義的パーソナリティ』、青木書店

3. 分析の方法

〔3-1〕構造方程式モデル

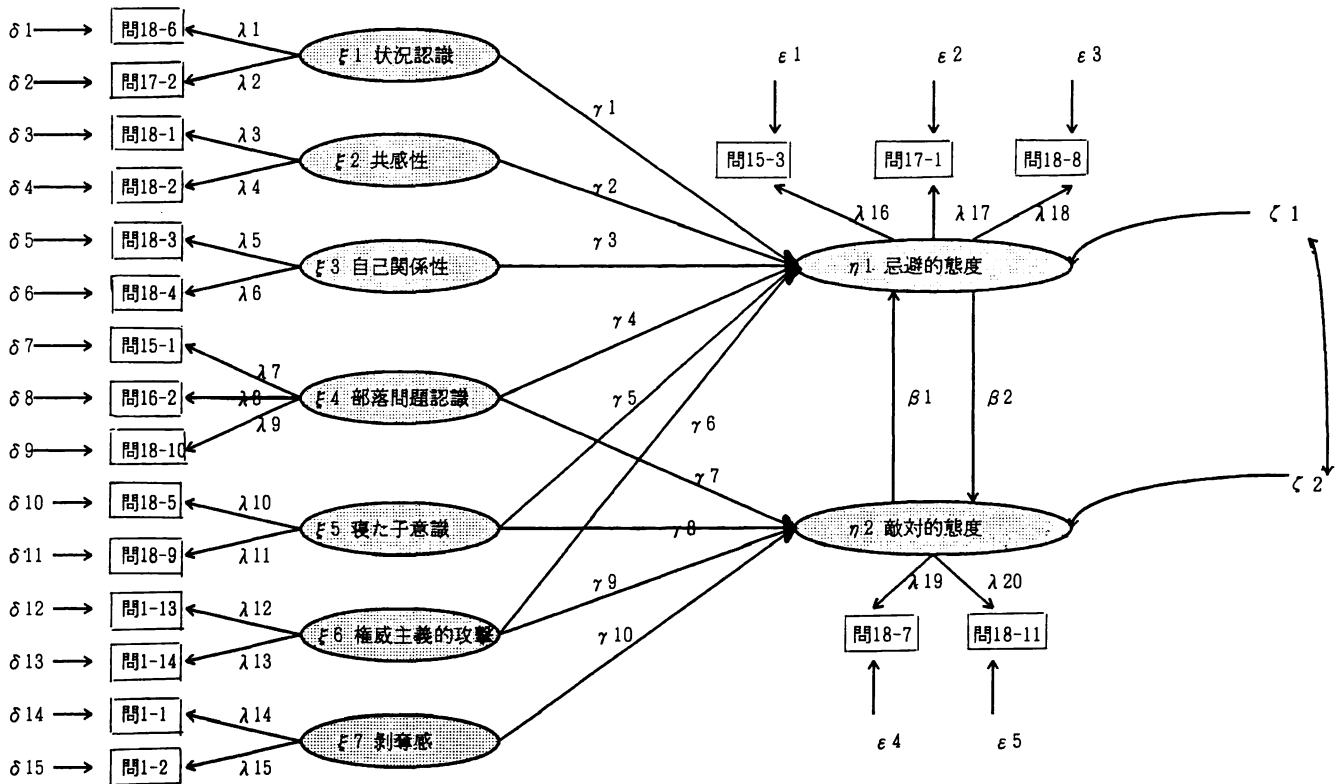
さて、これで、二つの説明される因子と、説明する因子についての説明をおえた。つぎに、これらの関係を分析する方法について述べることにする。

理論的にこれらの因子の関係は、図1のように因果関係のモデルを考えた。これが現実のデータにどの程度適合しているか、またどの因子が大きな影響をおよぼしているのかを構造方程式モデル (Structural Equation Models) を用いて解析する^(注1)。

構造方程式モデルは、測定モデルと構造モデルとから構成される。測定モデルは、実証の変数と潜在的因子との関係を分析し、明確にモデル化するものであり、構造モデルは、潜在的因子相互の因果関係を明確にモデル化するものである。

なぜ、このような分析モデルを使うのか？ 理由は二つある。一つは、理論

図1. 「忌避の態度」と「敵対の態度」を説明する理論モデル



的に想定された要因にできるだけ近いものを取りだすのに、この方法は有効であること。というのは、ここで使うデータは、質問紙によって、あらかじめコード化された選択肢にそって回答されたものであるが、質問は、科学的に厳密に定義された言語ではなく、日常用語をもちいているために、かならずしも測定しようとする要因を一次的に測定しているとは限らない。とくに事実ではなく、価値観・態度などの意識を把握しようとする場合は、そうである。だから、いろんな要素を含みこんでしまっており、はたして測定しようとしている要因を、うまくとらえているかは保証の限りではない。そこで、複数の質問項目の反応をみ、それらの複数の実証的変数に共通する要素を、測定しようとする要因であると考えた方がよい。こうした方が、より信頼性のある結果がえられる。このように複数の実証的変数の共通要素を取りだしたものを潜在的因子とよぶことにする。

〔3-2〕潜在因子と実証的変数

たとえば、〔忌避的態度〕は、つぎの3つの質問に対する回答を実証的変数とし、それらから構成された潜在的因子である。

(a)「でも、奥さん、同和地区には、遊びに行かせないほうがいいわよ。なにかトラブルがあったら大変よ」という発言にどういう態度をとるのか（問15-3、質問および回答結果は、付表参照。以下同じ）

(b)子どもが結婚しようとしている相手が部落出身であったときにどのような態度をとるのか（問17-1）。

(c)「同和地区の人と深くかかわることには、ためらいを感じてしまう」という意見についてどう思うか（問18-8）。

もし、〔忌避的態度〕を、(b)だけで測定するとすれば、そのなかには、回答者の結婚観や親族関係についての態度が含みこまれてしまう。そうした夾雑物を排除してできるだけ純粹の〔忌避的態度〕を測定するために、このように複数の実証的変数から潜在因子を取りだす方法を採用した。

なお、〔敵対的態度〕は、つぎの二つの質問項目への反応によって測定した。

(a)「同和地区の人自身、差別されないように行動を改めてほしい」という意見についてどう思うか（問18-7）。

(b)「同和地区の人たちの生活が自分たちより、よくなるのは我慢できない」という意見についてどう思うか(問18-11)。

説明されるべき従属因子はもちろんのこと、7つの説明因子も、2～3つの実証的変数によって構成された潜在因子である^(注1)。潜在的因子は、○で、実証的変数は□でかこんでいる。

構造方程式モデルをつかう第二の理由は、各因子の関係を、たんなる相関関係の把握ではなく、因果関係で把握しようとする場合、この分析モデルは有効である。

従来は、複数の変数から共通する因子をとりだすには、因子分析が、そして変数間の因果関係の分析には、パス解析が使われていた。同時に、これら二つの処理を行うことはできなかった。ところが、K. G. Jöreskog と Dag Sörbomとが開発した Lisrel (Analysis of Linear Structural Relationships by Maximum Likelihood and Least Squares Model から名付けたもの)では、潜在因子の抽出と潜在因子相互の因果関係を同時に解析することができる^(注2)。

注1 潜在変数として設定された説明要因は、それぞれつぎのような意見に対する反応によって構成されている。

①〔状況認識〕

(6)〔部落に対する差別は、今も根深い〕という意見(問18-8)。

(7)部落出身者との結婚に親類のものがとる態度の予想(問17-2)。

②〔共感性〕

(8)「差別された人のくやしさは、とてもひとごととは思えない」という意見(問18-1)。

(9)「差別する人って、みにくい、いやらしい人だ」という意見(問18-2)。

③〔部落差別の存在と自己との関係性の認識〕

(10)「部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話だ」という意見(問18-3)。

(11)「差別をなくすためには、私一人だけでもガンバリたい」という意見(問18-4)。

④〔部落問題についての認識の程度〕

(12)世間話の中で出てきた発言にたいする認識のしかた(問15-1)。

(13)落書きについての認識のしかた(問16-2)。

14「同和地区のこれまでの生活状況を考えると、同和対策が必要だったことも、よく理解できる」という意見（問18-10）。

⑤〔反同和対策路線〕

15「差別、差別と問題にするのは、寝た子を起こすようなものだ」という意見（問18-5）。

16「同和対策のやり方をみていると、どちらが差別されているのかわからない」という意見（問18-9）

⑥〔権威主義的攻撃〕

17「生活保護を受けるのは、少しも恥ずかしいことではない」という意見（問1-13）。

18「犯罪をなんどもくりかえす者は、刑務所に閉じ込めておけばよい」という意見（問1-14）。

⑦〔剥奪感〕

19「私は、今の生活に満足している」という意見（問1-1）。

20「私は、いつも損なことばかり、させられている」という意見（問1-2）。

注2 K. G. Jöreskog とDag Sörbom によると、構造方程式モデルの数学的基礎は、Heise (1975)、Duncan (1975)、Goldberg (1972)、K. G. Jöreskog and Dag Sörbom (1979) にみられ、Blalock (1971, 1974) が初歩的レベルで問題をあつかい、より高度なレベルでGoldberger とDuncan (1973) やAigner とGoldberger がいくつかの問題をあつかい応用しているという。K. G. Jöreskog and Dag Sörbom, *Lisrel V - Analysis of Linear Structural Relationships by Maximum Likelihood and Least Squares Methods*, 1981

〔3-3〕 LISREL

データは、1986年にO府H市の市民対象におこなった意識調査結果を用いた（注1）。分析に際しては、K. G. Jöreskog と Dag Sörbom が作成した Lisrel のプログラム（第5版）を使用し、ピアソンの相関係数マトリックスを投入した。

われわれが用いている実証的変数は、dychotomous または順位尺度で測定されているため（注2）、等間尺度、比例尺度を前提とするピアソン相関係数のマトリックス分析には、少しの無理があった。tetchoric, polychotomous または polyserial相関係数を計算し、それらのマトリックスを分析するほうが、統計学的にDistribution理論に則した結果が得られるであろう。（K. G.

Lisrelのオプションを利用して、これらの特殊関数のマトリックス分析は可能であったが、分析の前提となる質問に一つでも無回答があれば、ケースごと分析対象から排除されるために、SASの統計プログラムをつかって、回答の平均値を計算し、それを無回答のケースに投入し、ピアソンの相関係数を計算し、そのマトリックスを分析対象とした。

ピアソンの相関係数は他の特殊相関係数と比較して、絶対値は小さくなる傾向がある。よって、regression weight や因子相関の数値は、dychotomous または順位尺度を前提とした tetchoric, polychotomous または polyserial 相関係数よりも小さくなるのである。したがって、実際に分析された数値は最低限度の因子関係をしめしているという統計的事実を確認しておく必要がある。

注1 データは、20歳以上の市民を母集団とし、ランダムに選らんだサンプルに、質問紙を郵送し、回答を得たものである。葉書による督促の後、未回答のものに再度調査票を送付し、重ねて回答への協力を依頼した。有効回答率は、55%で、都市住民を対象とする郵送調査では、まずまずの回答を得ている。調査時期は、1986年1月6日～2月28日である。属性別集計結果は、付表の通りである。

なお、付表の総数は1,407であるが、この分析の対象サンプルは2,174である。前者はH市の市民の意識を代表するサンプルである。この調査は、ある手続ミスから最初に回収したサンプルを捨て、もう一度サンプリングからやり直した。この分析では、意識の内部構造を分析するという目的のため、より安定した分析結果を得るために、最初に回収したサンプルも加えたものを対象とした。したがって2,174サンプルは厳密にはH市を代表するサンプルとはなっていないが、そのランダムな性格は保証されている。

注2 なお、問15-2、問17-2に対する回答は、順位尺度となるように変換した。

分析の対象となる質問に軒並み回答していないものは、分析対象から排除したが、一つ、あるいは二つの質問に、無回答である場合は平均値を与え、分析対象から排除しなかった。

〔3-4〕測定モデルの修正

理論モデルでは、説明因子を構成する実証的変数相互および、従属因子を構成する実証的変数相互には、因果関係はないという前提から出発した。ところが実際には、これらの変数相互の関係に相関がある場合には、無理が生じる。

その結果、 χ 自乗値が大きくなる。そこで、構造モデルにはそのままにしておいて、測定モデルで、modification indexの $\theta - \epsilon$ 、 $\theta - \delta$ (注1) の行列で大きな値を示すものから順に、実証的変数間には相関があるというように修正を加えていった。表1のAV010は、初期のモデルであり、AV011 ~ AV1913は、その修正の過程を示している。結局、測定モデルの修正で最終的に望ましい結果を得られたのはAV1913である。これは、説明変数間の13組のペアと、従属変数間の3つのペアとの間に相関関係があると修正したものである。その結果、適合性は ρ が89.1%、 Δ が92.0と極めて良い結果がえられた (注2)。

注1 $\theta - \epsilon$ (TE) は従属変数における独自因子負荷の相関係数マトリックスである (residual factor correlation matrix)。 $\theta - \delta$ (TD) は説明変数における独自因子負荷の相関係数マトリックスである。

注2 モデルの適合性を調べるために、ナルモデルをつくった。これはUCLAのBentlerによって考え出されたモデルである。 χ 自乗値は、同じマトリックスを分析しても対象人数または自由度によって影響されるのである。よって与えられた対象人数、および自由度の範囲内で最大 χ 自乗値を測定し、そのreductionの割合を目安としてモデルの適合性を評価するのである。最大 χ 自乗値をえるためのモデルをNull Modelという (*).

これは、測定モデルや構造モデルで想定しているような実証的変数と潜在変数との間にも、潜在変数間相互にも因果関係は、まったくないと仮定している。われわれのナルモデルでは、自由度190で、 χ 自乗値は、7,395.34であった。これと実際のモデルの自由度、 χ 自乗とから、適合性を示す ρ と δ を計算した。計算式は下記の通りである。適合性の評価の目安としてのIndexを ρ (Rho)、 Δ (Delta) という。計算式は、次のとおりである。

$$\rho = \frac{\frac{\chi^2(\text{null})}{df(\text{null})} - \frac{\chi^2(\text{model})}{df(\text{model})}}{\frac{\chi^2(\text{null})}{df(\text{null})} - 1}$$

$$\Delta = \frac{\chi^2(\text{null}) - \chi^2(\text{model})}{\chi^2(\text{null})}$$

* null modelは、pattern: LY,LX,PH,BE,GA,PS にすべて0をおいた。

表 1

| Goodness of Fit Indices for Structural Model (N = 2,174) | | | | | |
|--|---------|----------|--------|----------|-------|
| ML = maximum likelihood | | | | | |
| model | df(自由度) | χ^2 | ρ | Δ | 有意水準 |
| Null Model | 190 | 7395.34 | | | |
| AV010 * | 136 | 1094.95 | 81.4 | 85.2 | 0.000 |
| AV011 | 135 | 1063.58 | 81.8 | 85.6 | 0.000 |
| AV191 | 117 | 656.64 | 87.8 | 91.1 | 0.000 |
| AV1911 | 116 | 613.42 | 88.7 | 91.7 | 0.000 |
| AV1913 | 114 | 582.2 | 89.1 | 92.0 | 0.000 |
| AV1955 | 113 | 578.99 | 89.1 | 92.2 | 0.000 |
| AV5000 | 114 | 579.05 | 89.2 | 92.2 | 0.000 |
| AV6000 | 115 | 579.54 | 89.3 | 92.2 | 0.000 |

* AV010 は、理論モデルのまま。

AV011 ~ AV191 は、modification indexを参考に、独立変数Xiの間の相関があるとし、パラメータを自由に開放したもの。

AV1911 ~ AV1913は、従属変数Yiの間に相関があるとし、パラメータを自由に開放したもの。

AV1950は、「自己関連因子」が「敵対的態度」に影響を及ぼしていると修正。

AV5000は、さらに「共感因子」は、「忌避的態度」に影響を及ぼしていないと修正。

AV6000は、さらに「知識理解」は、「忌避的態度」に影響を及ぼしていないと修正。

(3-4) 理論モデルの修正

次に、われわれが理論モデルで想定した潜在因子相互の間の関係以外に現実には、相関があるかどうかを検討するために、理論モデルを修正し、AV1913と比較検討した。AV1955は、「自己関連因子」が「敵対的態度」に影響を及ぼしていると修正。AV5000は、それに加えて「共感因子」が「忌避的態度」に影響を及ぼしていないと修正したもの。AV6000は、さらに「知識理解因子」は「忌避的態度」に影響を及ぼしていないと修正したもの。これらの修正モデルとわれわれが理論的に考えたモデルの χ 自乗値、 ρ 、 Δ を比較したのが、表2である。AV1955との間には、5%の水準で有意な差があったが、適合性の向上は微々たるものあり、当初のわれわれが作った理論モデルで十分に現実のデータが説明できるものと考え、理論モデルの修正は必要ないものと判断した。

表 2

| model | df(自由度) | χ^2 | p | d | 有意水準 |
|-------------------|---------|----------|-----|-----|------|
| AV1913 VS. AV1950 | 1 | 3.23 | .0 | .2 | 0.05 |
| AV1913 VS. AV5000 | 0 | 3.17 | .1 | .2 | 0.00 |
| AV1913 VS. AV6000 | 1 | 2.68 | .2 | .2 | 0.10 |

4. 分析の結果

〔4-1〕測定モデル (measurement model) の検討

測定モデル (measurement model) — 実証的変数と潜在的因子との関係 — についての分析結果は、表3の通りである。全般的にみて、良好な結果を与えることができた。特徴的な点をあげると、つぎのようである。

「忌避的態度因子」では、「部落出身者との結婚についての自己の態度」が、他の二つの変数にくらべて因子負荷量が多く、この因子形成に大きく寄与していることがわかる。ついで、「同和地区の人と深くかかわることには、ためらいを感じてしまう」という意見が寄与し、「同和地区には、遊びに行かせないほうがいい」という発言への反応のしかたは、これら二つの変数に比べると寄与率は低い。これら3つの実証的変数によって、〔忌避的態度〕は、取り出せている。

「敵対的態度因子」には、「同和地区の人たちの生活が、自分たちより、よくなるのは、がまんできない」がより大きく寄与すると予想していたが、予期に反して「同和地区の人自身、差別されないよう行動をあらためてほしい」の方がより大きく寄与していた。前者の意見は、強烈な反感を表現しており、さすがにこの意見に「そう思う」と答えたものは、6%と少なかった。それに対して後者の意見に「そう思う」と答えたものは、38%と多い。このようなことが、結果的に寄与率へ影響を与えたのかもしれない。その結果、「敵対的態度因子」は、当初理論的に設定したものと、すこしズレて、部落差別の存続の原因を、差別される側の問題点に求める発想 (blame the victim) を取り出したとみることができる。

表 3

| Standardized Parameter Estimate: Measurement Model (N = 2,174) | | |
|--|----------------|-----------------|
| Model AV191 : ML = maximum likelihood | | |
| Factor and Variables | Factor Loading | Standard Errors |
| η1 忌避的態度因子 | | |
| 問15-3 (遊ばせない) | .474 | - * |
| 問17-1 (結婚させない) | .829 | .086 |
| 問18-8 (かかわりたくない) | .588 | .065 |
| η2 敵対的態度因子 | | |
| 問18-7 (行動を改めよ) | .508 | - * |
| 問18-11(我慢できない) | .332 | .052 |
| ξ1 差別状況認識因子 | | |
| 問18-6 (差別は根深い) | .237 | - * |
| 問17-2 (親類の態度) | .830 | .447 |
| ξ2 共感性因子 | | |
| 問18-1 (他人事ではない) | .556 | - * |
| 問18-2 (差別は醜い) | .596 | .078 |
| ξ3 自己関連性因子 | | |
| 問18-3 (無関係) | -.585 | - * |
| 問18-4 (一人でもガンバル) | .598 | .056 |
| ξ4 部落問題認識因子 | | |
| 問15-2 (発言) | -.623 | - * |
| 問16-2 (落書き) | .426 | .052 |
| 問18-10(事業の必要性) | .513 | .056 |
| ξ5 寝た子意識因子 | | |
| 問18-5 (寝た子を起こすな) | .486 | - * |
| 問18-9 (逆差別感) | .698 | .089 |
| ξ6 権威主義的攻撃因子 | | |
| 問1-13 (生活保護) | -.301 | - * |
| 問1-14 (厳罰) | .381 | .160 |
| ξ7 剥奪感因子 | | |
| 問1-1 (満足度) | -.295 | - * |
| 問1-2 (いつも損) | .609 | .677 |

* varianceを1に固定したので、Standard Errorsは計算できなかった。

「状況認識因子」には、「部落に対する差別は、今も根深い」より、「部落出身者との結婚についての親類の態度」の方が、はるかに大きく寄与している。これは、前者が一般的なかたちで、漠然と差別の存在状況をどのように受けとめているのかをきいているのであるが、これよりも身近な人びとが具体的な場面でとる態度予測の方がはるかに大きな影響を及ぼしていることを示している。

その他、「共感性因子」、「自己関連性因子」、「部落問題認識因子」、「寝た子意識因子」などは、バランスよく実証変数から抽出されている。しかし、「権威主義的攻撃因子」は他の因子にくらべて二つの変数の因子負荷量がやや少なく、改善の余地をのこしている。

〔4-2〕構造モデルの検討

構造モデルについての標準化されたパラメータの推定値は、表4の通りである。まず、説明因子がどの程度従属因子を説明しているのかをみてみよう。

〔忌避的態度〕に、最も大きく影響を与えているのは、「状況認識」である。そのウエイトは、0.598と大きい。差別の根強さを認識するものほど、〔忌避的態度〕をもつという方向で影響を与えている。もちろん、差別の根強さを認識すればするほど、差別に対する怒りをもち、差別からの解放へ強い衝動を覚えるという方向もある。しかし、そうしたものは、少数であるのだろう。もし、半々に分けられるとすると、「状況認識」と〔忌避的態度〕とは無関係となるはずである。世間の多くのものが差別を容認していることを知れば知るほど、それだけ「やっかいなこと」にかかわりにならないようにしようとする。

ついで〔忌避的態度〕に影響を与えているのは、「自己関連性」である。このウエイトは、0.411である。部落問題は、「私とは関係のない話だ」ととらえるものほど、〔忌避的態度〕をもつ。これら二つの因子が〔忌避的態度〕に大きな影響を及ぼしている。

critical ratioの値が1.5前後と低いので、確かなことはいえないが、「部落問題認識」も〔忌避的態度〕に影響をあたえている。

しかし、予期に反して、「共感性」は、〔敵対的態度〕に影響をおよぼしていない。

他方〔敵対的態度〕については、圧倒的に「寝た子意識」が影響をあたえて

表 4

| Standardized Parameter Estimate: Structural Model (N = 2,174) | | | | |
|---|-----------------|-----------------|----------------|--|
| Model AV1913 : ML = maximum likelihood | | | | |
| Standardized Parameter | Standard Weight | Standard Errors | Critical Ratio | |
| Factor correlations | | | | |
| φ 12 状況認識—共感性 | -.319 | .007 | -45.571 | |
| φ 13 状況認識—自己関係 | -.413 | .009 | -46.667 | |
| φ 14 状況認識—問題認識 | -.330 | .008 | -41.250 | |
| φ 15 状況認識—寝た子論 | .366 | .007 | 52.286 | |
| φ 16 状況認識—権威主義 | .305 | .005 | 61.000 | |
| φ 17 状況認識—剥奪感 | .045 | .003 | 15.000 | |
| φ 23 共感性—自己関係 | .665 | .018 | 36.944 | |
| φ 24 共感性—問題認識 | .538 | .017 | 31.647 | |
| φ 25 共感性—寝た子論 | .262 | .012 | 21.833 | |
| φ 26 共感性—権威主義 | -.289 | .012 | -24.083 | |
| φ 27 共感性—剥奪感 | -.017 | .008 | -2.125 | |
| φ 34 自己関係—問題認識 | .627 | .017 | 36.882 | |
| φ 35 自己関係—寝た子論 | -.514 | .015 | -34.267 | |
| φ 36 自己関係—権威主義 | -.555 | .015 | -37.000 | |
| φ 37 自己関係—剥奪感 | -.040 | .008 | -5.000 | |
| φ 45 問題認識—寝た子論 | -.704 | .017 | -41.412 | |
| φ 46 問題認識—権威主義 | -.626 | .015 | -41.733 | |
| φ 47 問題認識—剥奪感 | -.136 | .011 | -12.364 | |
| φ 56 寝た子論—権威主義 | .613 | .014 | 43.786 | |
| φ 57 寝た子論—剥奪感 | .103 | .008 | 12.875 | |
| φ 67 権威主義—剥奪感 | .310 | .010 | 31.000 | |
| Regression Weights | | | | |
| γ 1 状況認識→忌避態度 | .598 | .164 | 3.646 | |
| γ 2 共感性→忌避態度 | -.014 | .065 | 0.215 | |
| γ 3 自己関係→忌避態度 | -.411 | .078 | -5.269 | |
| γ 4 問題認識→忌避態度 | -.139 | .090 | -1.544 | |
| γ 5 寝た子論→忌避態度 | .198 | .278 | -0.712 | |
| γ 6 権威主義→忌避態度 | .297 | .300 | 0.990 | |
| γ 7 問題認識→敵対態度 | -.147 | .099 | -1.485 | |
| γ 8 寝た子論→敵対態度 | .985 | .131 | 7.519 | |
| γ 9 権威主義→敵対態度 | .146 | .284 | 0.514 | |
| γ 10 剥奪感→敵対態度 | .194 | .128 | 1.516 | |
| β 1 敵対態度→忌避態度 | -.416 | .287 | -1.449 | |
| β 2 忌避態度→敵対態度 | .109 | .081 | 1.346 | |
| Residual Variance | | | | |
| ζ 1 → 忌避態度 | .037 | .021 | 1.762 | |
| ζ 2 → 敵対態度 | -.154 | .032 | -4.813 | |
| ζ 1—ζ 2 | -.092 | .020 | -4.600 | |

いる。そのウエイトは、0.985と著しく大きい。ついでcritical ratioの値が1.5前後と低いが、「部落問題認識」と「剥奪感」が影響を与えている。それぞれのウエイトは、0.147と0.194である。なお、「権威主義的攻撃」は、ウエイトは、0.297とそこそこあるが、critical ratioの値は、0.99と低い。

従属因子相互の関係をみると、〔敵対的態度〕が〔忌避的態度〕に影響を

たえており、逆の方向で、〔忌避的態度〕が〔敵対的態度〕に影響を与える方は小さい。

residual varianceは、〔忌避的態度〕に対するものが、0.037であり、〔敵対的態度〕に対しては、0.154である。〔忌避的態度〕については、われわれがとりあげた説明変数でその分散はほぼ説明できている。他方、〔敵対的態度〕を説明するには、また重要な変数を落としていることを示唆している。

以上のように、われわれが考えた理論モデルは、現実のデータをよく説明するものであった。

5. まとめ

〔何があきらかになったのか？〕

Lisrelの分析プログラムをつかって、意識調査結果を解析してみた。この分析に投入した実証の変数は、実に20個にもものぼる。説明される因子は二つ。5つの実証の変数から構成した。説明する因子は7つ、15の実証の変数から構成した。かなり複雑なモデルである。それにもかかわらず、理論モデルは、現実の意識の構造をよく説明するものであった。この分析は、Lisrelが、どんなものかを試しに使ってみようという動機から、おこなった。この分析手法は、あらかじめ要因間の関係を理論的に構成しておいて、それを検証するというものである。だから、データから、新しい仮説を探索していくという方法とは、まったく逆である。

理論的モデルを構成し、これを検証するという今回の課題からすれば、100%うまくいったとすると、新しい発見というものはない。従来、漠然と考えていた仮説を、明確に図式化し、実証できたということである。

しかし、現実には、100%うまくいくということはない。理論的モデルと現実のデータとのズレから、いろいろなことを読み取ることができる。明らかになったことを、まとめてみよう。

①〔忌避的態度〕は、「状況認識」によって大きく影響されるということがあきらかになった。これから推論できることは、若い世代に対して差別の厳しさを語ることは、その意図に反して、部落を忌避する態度を生み出すことになるのではないかという点である。「差別の厳しさ、根強さ」を認識するこ

とが、部落を忌避するのではなく、差別社会の変革、差別的人間関係の変革へと向かうためには何が必要なのか、これを緊急に明らかにする必要があるだろう。

- ②「自己関連性」の重要性は、いままで経験的に指摘されてきた。今回の解析結果でも、部落問題を自己と関連させて認識することが、〔忌避的態度〕を減少させることになることが確認できた。注目すべきことは、この因子が、他の因子に比べても格段に大きな影響力を持っている点である。自己関連性とは、具体的に何なのか。これを抽象レベルではなく、日常生活の中で具体的なリアルなものとして実感できる場をいかにつくっていくのか、これも実践的な課題である。
- ③「権威主義的攻撃」も、また〔忌避的態度〕に影響をおよぼしている。当初想定していたのは、この「権威主義的攻撃」は、〔忌避的態度〕よりも〔敵対的態度〕に大きな影響を及ぼしているというのであった。しかし、今回の解析では、逆に〔敵対的態度〕より、〔忌避的態度〕に大きな影響を与えていることが分かった。
- ④「共感性」が、ほとんど〔忌避的態度〕に影響を及ぼしていないという意外な結果が明らかになった。「差別された人の悔しさは、とてもひとごととは思えない」（問18-1）や「差別する人って、みにくい、イヤラシイひとだ」（問18-2）と問17-1の結婚忌避との相関を単独で計算すると、.244および.291とかなり高かった。それが、他の変数の間接的影響を取り除くと、ほとんど影響力をもたないのである。なぜ、このような現象が生じているのかを、説明する論理を見つけだすことはできないが、今後、この点を解明する必要があるだろう。
- ⑤「部落問題認識」と〔敵対的態度〕との関係は、圧倒的である。異常なくらい決定的な影響力をもつ。しかし、よく考えてみると、〔敵対的態度〕としてとりだされている因子は、われわれが理論的に想定した因子とかなりズレたものである。それぞれの因子に負荷量が多い項目「同和対策のやりかたをみると、どちらが差別されているのかわからない」（問18-9）と「同和地区の人自身、差別されないように行動を改めてほしい」（問18-8）とをとりだしてみると、いずれも問題存続の原因を「差別者側」にもとめるのではなく、

「被差別者側」に求めているという点で、共通の要素を持つ。こんなことが、異常に高い影響力を示したのであろう^(注1)。尺度構成の不味さによるところが大であろう。

⑥とりわけ注目されるのは、〔敵対的態度〕と〔忌避的態度〕との関係である。

〔敵対的態度〕が〔忌避的態度〕に及ぼす影響が大きい。逆に、〔忌避的態度〕が〔敵対的態度〕に及ぼす影響は少ない。逆に現代の若者層の意識を考えたとき、〔忌避的態度〕が〔敵対的態度〕を生み出すことは考えにくい。しかし、〔敵対的態度〕は〔忌避的態度〕を生むことは充分考えられる。こうした予想を、この解析はデータで裏付けた。

⑦以上のように、差別意識が多様な要素からなりたっていることの一端を、今回は、〔忌避的態度〕と〔敵対的態度〕という二つの要素を取り出すことによって、明示した。そして、それを生み出す要因もまた異なることを示すことができた。

〔どこに問題点があったのか〕

①〔忌避的態度因子〕を取り出すことは成功したが、〔敵対的態度因子〕を取り出すことには、失敗した。この潜在因子への大きい寄与率から考えると、どうも純粹に〔敵対的態度〕というよりは、部落への〔見下し〕意識を含む嫌悪感をとらえているようだ。実証的変数が2つだけだったこともその一因であろうが、意図したものをうまくとりだせなかった。今後、大いに改良の余地がある。

②また、〔権威主義的攻撃〕を測定する項目も、弱い。内容からしても、権威主義的攻撃の中核部分をついていないようだ。これも、今後改善の余地がある。

〔今後の課題は何か？〕

今回の分析は、まずLisrelの解析方法に興味をもち、手持ちのデータを用いて、試みに分析してみたのである^(注2)。したがって、調査そのものが、Lisrelの分析をするために質問項目を設計したものでないために、いくつかの無理が生じている。

今後、こうした差別意識の内部構造をあきらかにするためには、差別意識の

構成要素を明確に概念規定し、かつそれを操作的に測定する質問項目を複数、最低3つ以上作る必要がある。2つでは、不安定であるようだ。もちろん説明変数も同じことがいえる。Lisrelの手法からすれば、定量的変数を用いる方がのぞましい。

おこなったようにLisrelは、厳密に潜在因子を理論的に想定し、それを析出する実証的変数群を考え、因子間の因果関係をあきらかにするという手法は、差別意識の構造を分析するのに、使える。この手法は、仮説探索型ではなく、仮説実証型である。AとBとの因子間に関係がないと想定したら、それにもとづいて方程式をつくり、係数を計算する。だから、現実のデータが、理論モデルにどの程度適合しているのかが、問題となる。モデルの出来、不出来が、鍵となる。現実を説明するよりよいモデルを構築すること。

それに、できればマクロな変数を取り入れてモデルをつくること。マクロな変数を実証的レベルでいかにとらえるのか、これが今後の大きな課題である。

注1 問18-8と問18-9との相関は、.202とそれほど高いわけではない。

注2 こうした分析をしようとしたのは、1987年8月から一年間、カルフォルニア大学バークレイ校社会学部に留学していた時、おなじく客員研究員として滞在中のHiroshi Fukurai博士に出会い、彼から受けた刺激による。彼は現在、テキサスA & M大学の教員として、マイノリティ集団関係の研究をするとともに、社会調査法などを講義し、多変量解析については、造詣が深い。彼から、Lisrelの分析手法を教えてもらい、解析上のアドバイスを受けた。彼との出会いがなかったら、この論文は生まれなかった。もちろん、Lisrelの理解に誤りがあるとなれば、私の責任である。

この分析は、カルフォルニア大学コンピューターセンターの計算機（IBM・CMS）を使った。エバンズ館の地下室には、端末が数十台設置され、24時間いつでも好きな時に、利用できるのは、ありがたかった。

<付図> ピアソン相関係数マトリックス

| | 問15-3 | 問17-1 | 問18-8 | 問18-7 | 問18-11 | 問18-6 | 問17-2 | 問18-1 | 問18-2 | 問18-3 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 問15-3 | 1.000 | | | | | | | | | |
| 問17-1 | 0.384 | 1.000 | | | | | | | | |
| 問18-8 | 0.359 | 0.495 | 1.000 | | | | | | | |
| 問18-7 | 0.124 | 0.208 | 0.226 | 1.000 | | | | | | |
| 問18-11 | 0.157 | 0.179 | 0.264 | 0.172 | 1.000 | | | | | |
| 問18-6 | 0.067 | 0.140 | 0.200 | 0.033 | 0.016 | 1.000 | | | | |
| 問17-2 | 0.257 | 0.578 | 0.318 | 0.180 | 0.124 | 0.197 | 1.000 | | | |
| 問18-1 | -0.157 | -0.244 | -0.198 | -0.050 | -0.136 | 0.077 | -0.125 | 1.000 | | |
| 問18-2 | -0.154 | -0.291 | -0.197 | -0.072 | -0.108 | 0.016 | -0.197 | 0.340 | 1.000 | |
| 問18-3 | 0.244 | 0.373 | 0.320 | 0.200 | 0.173 | -0.035 | 0.214 | -0.181 | -0.186 | 1.000 |
| 問18-4 | -0.281 | -0.348 | -0.295 | -0.106 | -0.096 | 0.030 | -0.291 | 0.265 | 0.289 | -0.359 |
| 問15-2 | 0.323 | 0.347 | 0.328 | 0.190 | 0.187 | 0.030 | 0.169 | -0.199 | -0.184 | 0.245 |
| 問16-2 | -0.140 | -0.190 | -0.137 | -0.161 | -0.157 | 0.158 | -0.077 | 0.210 | 0.154 | -0.279 |
| 問18-10 | -0.172 | -0.205 | -0.130 | -0.158 | -0.235 | 0.131 | -0.162 | 0.238 | 0.175 | -0.197 |
| 問18-5 | 0.121 | 0.225 | 0.159 | 0.281 | 0.152 | -0.129 | 0.126 | -0.048 | -0.050 | 0.315 |
| 問18-9 | 0.142 | 0.240 | 0.202 | 0.409 | 0.204 | -0.063 | 0.219 | -0.104 | -0.133 | 0.228 |
| 問1-13 | -0.102 | -0.156 | -0.105 | -0.135 | -0.039 | 0.035 | -0.070 | 0.075 | 0.053 | -0.128 |
| 問1-14 | 0.107 | 0.181 | 0.147 | 0.166 | 0.124 | -0.037 | 0.104 | -0.075 | -0.029 | 0.201 |
| 問1-1 | 0.017 | 0.039 | 0.003 | -0.008 | -0.054 | -0.000 | 0.031 | 0.009 | 0.044 | 0.006 |
| 問1-2 | 0.038 | 0.030 | 0.026 | 0.074 | 0.122 | 0.030 | 0.026 | -0.011 | 0.015 | 0.067 |

| | 問18-4 | 問15-2 | 問16-2 | 問18-10 | 問18-5 | 問18-9 | 問1-13 | 問1-14 | 問1-1 | 問1-2 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 問18-4 | 1.000 | | | | | | | | | |
| 問15-2 | -0.185 | 1.000 | | | | | | | | |
| 問16-2 | 0.165 | -0.252 | 1.000 | | | | | | | |
| 問18-10 | 0.248 | -0.171 | 0.251 | 1.000 | | | | | | |
| 問18-5 | -0.169 | 0.184 | -0.317 | -0.226 | 1.000 | | | | | |
| 問18-9 | -0.219 | 0.163 | -0.228 | -0.270 | 0.354 | 1.000 | | | | |
| 問1-13 | 0.066 | -0.109 | 0.110 | 0.095 | -0.135 | -0.147 | 1.000 | | | |
| 問1-14 | -0.142 | 0.152 | -0.140 | -0.141 | 0.238 | 0.146 | -0.114 | 1.000 | | |
| 問1-1 | 0.057 | -0.012 | 0.031 | 0.051 | 0.053 | 0.002 | 0.008 | -0.031 | 1.000 | |
| 問1-2 | 0.018 | 0.052 | -0.038 | -0.036 | 0.053 | 0.042 | -0.061 | 0.078 | -0.175 | 1.000 |

<付表>

問1 人間や社会について、次のようなさまざまな意見があります。それぞれについて、あなたはどのように思いますか、あてはまる回答の数字に○をしてください。以下おなじ要領で、お答えください。

(1) 私は、今の生活に満足している

| | ① そ う 思 う | ② そ う 思 う | ③ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | ④ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | 回 答 な し | |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|---|---|------------------|-----|
| 総 数 (= 100%) | 1407 | 19.3 | 42.6 | 22.2 | 13.3 | 2.6 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 16.0 | 40.6 | 23.6 | 17.9 | 1.9 |
| 30～39歳 | 132 | 22.0 | 36.4 | 20.5 | 19.7 | 1.5 |
| 40～49歳 | 160 | 16.3 | 37.5 | 24.4 | 20.0 | 1.9 |
| 50～59歳 | 135 | 12.6 | 35.6 | 34.8 | 16.3 | 0.7 |
| 60歳以上 | 134 | 18.7 | 47.8 | 18.7 | 9.0 | 6.0 |
| 女 20～29歳 | 114 | 25.4 | 50.0 | 17.5 | 7.0 | — |
| 30～39歳 | 183 | 15.8 | 49.2 | 20.2 | 12.6 | 2.2 |
| 40～49歳 | 169 | 17.2 | 47.3 | 21.3 | 14.2 | — |
| 50～59歳 | 127 | 24.4 | 45.7 | 17.3 | 8.7 | 3.9 |
| 60歳以上 | 130 | 25.4 | 33.1 | 24.6 | 7.7 | 9.2 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 18.3 | 41.9 | 21.8 | 15.6 | 2.4 |
| 公務員・教員 | 41 | 24.4 | 48.8 | 24.4 | — | 2.4 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 23.7 | 47.3 | 16.1 | 10.8 | 2.2 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 16.9 | 39.7 | 23.1 | 18.6 | 1.7 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 17.1 | 32.9 | 32.1 | 16.4 | 1.4 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 15.6 | 35.9 | 24.2 | 22.7 | 1.6 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 21.7 | 49.0 | 18.5 | 7.6 | 3.2 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 16.8 | 34.4 | 28.5 | 15.8 | 4.5 |
| 高校卒業程度 | 602 | 20.1 | 45.5 | 19.9 | 13.3 | 1.2 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 21.1 | 50.2 | 17.2 | 9.7 | 1.8 |

問1(2) 私は、いつも損なことばかり、させられている

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② ど ち ら か と い え ば そ う 思 う | ③ そ う 思 わ な い | ④ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|---|---------------------------------|---|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 4.4 | 12.5 | 37.6 | 40.8 | 4.7 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 10.4 | 14.2 | 36.8 | 37.7 | 0.9 |
| 30～39歳 | 132 | 3.8 | 8.3 | 35.6 | 52.3 | — |
| 40～49歳 | 160 | 2.5 | 13.8 | 33.8 | 46.9 | 3.1 |
| 50～59歳 | 135 | 5.9 | 14.1 | 39.3 | 37.0 | 3.7 |
| 60歳以上 | 134 | 6.0 | 11.9 | 38.8 | 32.8 | 10.4 |
| 女 20～29歳 | 114 | 1.8 | 7.0 | 39.5 | 51.8 | — |
| 30～39歳 | 183 | 1.1 | 9.8 | 39.9 | 47.0 | 2.2 |
| 40～49歳 | 169 | 4.1 | 11.8 | 49.1 | 32.0 | 3.0 |
| 50～59歳 | 127 | 8.7 | 19.7 | 28.3 | 37.8 | 5.5 |
| 60歳以上 | 130 | 2.3 | 15.4 | 33.1 | 32.3 | 16.9 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 8.7 | 11.8 | 34.6 | 41.2 | 3.8 |
| 公務員・教員 | 41 | 2.4 | 12.2 | 39.0 | 46.3 | — |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 2.2 | 16.1 | 32.3 | 46.2 | 3.2 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 1.7 | 11.2 | 38.0 | 45.9 | 3.3 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 3.6 | 19.3 | 37.9 | 39.3 | — |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 3.9 | 14.1 | 40.6 | 36.7 | 4.7 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 4.3 | 10.5 | 39.6 | 38.9 | 6.6 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 6.1 | 14.1 | 36.9 | 34.6 | 8.2 |
| 高校卒業程度 | 602 | 3.3 | 12.1 | 38.5 | 43.2 | 2.8 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 3.2 | 9.7 | 38.7 | 47.3 | 1.1 |

問1(13) 生活保護を受けるのは、少しも恥ずかしいことではない

| | | ① そ う 思 う | ② そ う 思 う ど ち ら か と い え ば | ③ そ う 思 わ な い ど ち ら か と い え ば | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し | |
|---------|-------------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|------|
| 総 数 | | 36.5 | 27.9 | 19.5 | 12.2 | 4.0 | |
| | | (=100%) | | | | | |
| 総 数 | | 1407 | | | | | |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | | |
| 男 | 20～29歳 | 106 | 40.6 | 28.3 | 23.6 | 5.7 | 1.9 |
| | 30～39歳 | 132 | 43.9 | 27.3 | 16.7 | 9.1 | 3.0 |
| | 40～49歳 | 160 | 40.0 | 25.6 | 16.9 | 17.5 | — |
| | 50～59歳 | 135 | 38.5 | 25.9 | 17.8 | 15.6 | 2.2 |
| | 60歳以上 | 134 | 19.4 | 29.9 | 23.9 | 15.7 | 11.2 |
| 女 | 20～29歳 | 114 | 42.1 | 38.6 | 12.3 | 4.4 | 2.6 |
| | 30～39歳 | 183 | 41.0 | 23.5 | 19.1 | 14.2 | 2.2 |
| | 40～49歳 | 169 | 36.7 | 29.0 | 24.9 | 8.3 | 1.2 |
| | 50～59歳 | 127 | 37.0 | 27.6 | 17.3 | 12.6 | 5.5 |
| | 60歳以上 | 130 | 27.7 | 26.2 | 20.8 | 14.6 | 10.8 |
| 〔職業別〕 | | | | | | | |
| | 自営業・家族従業員 | 289 | 30.4 | 22.8 | 23.5 | 18.0 | 5.2 |
| | 公務員・教員 | 41 | 46.3 | 31.7 | 12.2 | 9.8 | — |
| | 民間の経営者・管理職 | 93 | 25.8 | 35.5 | 24.7 | 14.0 | — |
| | 30人以上の企業の常雇 | 242 | 42.1 | 31.4 | 16.1 | 7.9 | 2.5 |
| | 29人以下の企業の常雇 | 140 | 32.9 | 27.9 | 22.9 | 13.6 | 2.9 |
| | パート・臨時雇・日雇 | 128 | 43.8 | 25.8 | 14.8 | 12.5 | 3.1 |
| | 無職(家事・通学中) | 437 | 39.1 | 28.4 | 18.5 | 10.1 | 3.9 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | | |
| | 義務教育終了程度 | 488 | 33.4 | 26.2 | 20.7 | 13.3 | 6.4 |
| | 高校卒業程度 | 602 | 38.4 | 28.7 | 20.3 | 10.5 | 2.2 |
| | 大学・短大卒業程度 | 279 | 38.4 | 30.1 | 15.1 | 14.0 | 2.5 |

問1 (14) 犯罪をなんどもくりかえす者は、刑務所にとじてめておけばよい

| | | ① そ う 思 う | ② ど ち ら か と い え ば そ う 思 う | ③ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し | |
|-------------|--------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|-----|
| 総 数 | | 1407 | 45.3 | 32.6 | 12.2 | 5.6 | 4.2 |
| | | (=100%) | | | | | |
| 総 数 | | 1407 | 45.3 | 32.6 | 12.2 | 5.6 | 4.2 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | | |
| 男 | 20～29歳 | 106 | 45.3 | 32.1 | 14.2 | 5.7 | 2.8 |
| | 30～39歳 | 132 | 43.2 | 37.1 | 12.9 | 5.3 | 1.5 |
| | 40～49歳 | 160 | 43.8 | 33.8 | 15.6 | 5.0 | 1.9 |
| | 50～59歳 | 135 | 53.3 | 26.7 | 11.9 | 6.7 | 1.5 |
| | 60歳以上 | 134 | 38.1 | 35.1 | 12.7 | 8.2 | 6.0 |
| 女 | 20～29歳 | 114 | 42.1 | 29.8 | 17.5 | 4.4 | 6.1 |
| | 30～39歳 | 183 | 45.4 | 30.1 | 12.6 | 6.6 | 5.5 |
| | 40～49歳 | 169 | 46.2 | 35.5 | 10.7 | 4.7 | 3.0 |
| | 50～59歳 | 127 | 53.5 | 30.7 | 7.1 | 3.9 | 4.7 |
| | 60歳以上 | 130 | 43.8 | 33.8 | 8.5 | 4.6 | 9.2 |
| 〔職業別〕 | | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | | 289 | 49.1 | 33.6 | 7.6 | 4.8 | 4.8 |
| 公務員・教員 | | 41 | 31.7 | 36.6 | 19.5 | 12.2 | 0.0 |
| 民間の経営者・管理職 | | 93 | 36.6 | 43.0 | 14.0 | 3.2 | 3.2 |
| 30人以上の企業の常雇 | | 242 | 45.9 | 33.5 | 12.8 | 5.4 | 2.5 |
| 29人以下の企業の常雇 | | 140 | 51.4 | 24.3 | 16.4 | 5.0 | 2.9 |
| パート・臨時雇・日雇 | | 128 | 43.8 | 32.8 | 14.8 | 6.3 | 2.3 |
| 無職(家事・通学中) | | 437 | 45.1 | 30.7 | 12.1 | 6.4 | 5.7 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | | 488 | 49.2 | 28.7 | 9.8 | 6.6 | 5.7 |
| 高校卒業程度 | | 602 | 47.3 | 32.7 | 11.8 | 5.1 | 3.0 |
| 大学・短大卒業程度 | | 279 | 34.1 | 39.4 | 17.6 | 5.4 | 3.6 |

問15 ふだん仲のよい近所の人たちが数人、なごやかに立ち話をしていました。そんな時、Aさんが、「昨日、うちの子どもが遊びに連れてきた子がいい子でね。住んでいるところを聞くと、同和地区なの。とても同和地区の子とは思えなかったわ」

Bさんが、「でも、奥さん、同和地区には、遊びに行かせないほうがいいわよ。なにかトラブルがあったら大変よ」といいました。ほかの人も、「ほんとねえ」とあいづちをうっていました。

(1) Aさんの発言について、あなたはどのように思いますか？

| | | 総 数 | ① べつだん問題 がある とは思えない | ② おかし いと思 う | ③ どちらとも いえない | 回 答 な し |
|---------|-------------|----------|------------------------------|----------------------|--------------------|------------------|
| | | (= 100%) | | | | |
| 総 | 数 | 1407 | 29.9 | 33.1 | 32.8 | 4.2 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 | 20～29歳 | 106 | 23.6 | 46.2 | 27.4 | 2.8 |
| | 30～39歳 | 132 | 25.8 | 32.6 | 36.4 | 5.3 |
| | 40～49歳 | 160 | 31.3 | 33.8 | 31.3 | 3.8 |
| | 50～59歳 | 135 | 43.0 | 25.2 | 30.4 | 1.5 |
| | 60歳以上 | 134 | 45.5 | 27.6 | 19.4 | 7.5 |
| 女 | 20～29歳 | 114 | 17.5 | 50.9 | 30.7 | 0.9 |
| | 30～39歳 | 183 | 16.4 | 33.9 | 46.4 | 3.3 |
| | 40～49歳 | 169 | 23.7 | 34.9 | 36.7 | 4.7 |
| | 50～59歳 | 127 | 35.4 | 29.9 | 30.7 | 3.9 |
| | 60歳以上 | 130 | 40.0 | 20.8 | 32.3 | 6.9 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| | 自営業・家族従業員 | 289 | 32.5 | 29.1 | 34.3 | 4.2 |
| | 公務員・教員 | 41 | 22.0 | 65.9 | 9.8 | 2.4 |
| | 民間の経営者・管理職 | 93 | 39.8 | 36.6 | 21.5 | 2.2 |
| | 30人以上の企業の常雇 | 242 | 28.9 | 34.3 | 33.9 | 2.9 |
| | 29人以下の企業の常雇 | 140 | 34.3 | 32.9 | 29.3 | 3.6 |
| | パート・臨時雇・日雇 | 128 | 16.4 | 34.4 | 46.9 | 2.3 |
| | 無職(家事・通学中) | 437 | 29.7 | 31.1 | 33.6 | 5.5 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| | 義務教育終了程度 | 488 | 34.8 | 26.0 | 33.4 | 5.7 |
| | 高校卒業程度 | 602 | 27.4 | 34.1 | 35.9 | 2.7 |
| | 大学・短大卒業程度 | 279 | 25.1 | 44.8 | 26.9 | 3.2 |

問15(2) Bさんの発言について、あなたはどのように思いますか？

| | 総 数 | ① べつだん問題がある とは思えない | ② おかしいと思う | ③ どちらともいえない | 回 答 な し |
|-------------|----------|--------------------------|--------------|----------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | |
| 総 数 | 1407 | 13.1 | 43.6 | 38.5 | 4.8 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 13.2 | 56.6 | 28.3 | 1.9 |
| 30～39歳 | 132 | 12.9 | 45.5 | 36.4 | 5.3 |
| 40～49歳 | 160 | 13.8 | 46.9 | 35.6 | 3.8 |
| 50～59歳 | 135 | 20.0 | 46.7 | 31.1 | 2.2 |
| 60歳以上 | 134 | 23.1 | 42.5 | 28.4 | 6.0 |
| 女 20～29歳 | 114 | 5.3 | 52.6 | 41.2 | 0.9 |
| 30～39歳 | 183 | 4.9 | 42.1 | 48.6 | 4.4 |
| 40～49歳 | 169 | 7.1 | 41.4 | 45.0 | 6.5 |
| 50～59歳 | 127 | 11.8 | 39.4 | 42.5 | 6.3 |
| 60歳以上 | 130 | 20.0 | 30.0 | 40.8 | 9.2 |
| 〔職業別〕 | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 14.5 | 42.9 | 37.4 | 5.2 |
| 公務員・教員 | 41 | 9.8 | 73.2 | 14.6 | 2.4 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 16.1 | 54.8 | 26.9 | 2.2 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 10.3 | 47.5 | 39.7 | 2.5 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 17.9 | 40.7 | 37.9 | 3.6 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 7.8 | 39.1 | 46.9 | 6.3 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 12.8 | 40.3 | 41.0 | 5.9 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 16.8 | 35.5 | 40.6 | 7.2 |
| 高校卒業程度 | 602 | 11.0 | 47.0 | 39.2 | 2.8 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 9.7 | 53.0 | 34.1 | 3.2 |

問15(3) もし、あなたが、その場にいたとすると、どういう態度をとりますか？

| | 総 数 | ① Bさん に同意して、 「こんな話もあるのよ」 と知っている例を話 す | ② あいづちをうつ | ③ おかし いと思 うが注 意する と気が ま た ずい る | ④ おかし いと思 うがそ の場の 雰囲気 をわか さない ため注 意する と | ⑤ 発言の 間違っ てい る点 をはき きりと 指摘 する | 回 答 な し |
|-------------|----------|---|--------------|---|---|---|------------------|
| | (= 100%) | | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 3.2 | 7.1 | 34.6 | 25.8 | 16.8 | 12.5 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 2.8 | 7.5 | 33.0 | 31.1 | 17.9 | 7.5 |
| 30～39歳 | 132 | 4.5 | 9.8 | 30.3 | 26.5 | 17.4 | 11.4 |
| 40～49歳 | 160 | 3.1 | 6.9 | 31.3 | 28.1 | 20.0 | 10.6 |
| 50～59歳 | 135 | 3.7 | 4.4 | 31.9 | 29.6 | 23.0 | 7.4 |
| 60歳以上 | 134 | 3.0 | 4.5 | 21.6 | 33.6 | 18.7 | 18.7 |
| 女 20～29歳 | 114 | 1.8 | 10.5 | 41.2 | 14.9 | 21.9 | 9.6 |
| 30～39歳 | 183 | 3.8 | 9.3 | 42.1 | 18.6 | 10.9 | 15.3 |
| 40～49歳 | 169 | 3.0 | 4.7 | 43.8 | 24.3 | 10.7 | 13.6 |
| 50～59歳 | 127 | 3.9 | 7.9 | 33.9 | 26.0 | 15.7 | 12.6 |
| 60歳以上 | 130 | 1.5 | 4.6 | 35.4 | 26.9 | 16.9 | 14.6 |
| 〔職業別〕 | | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 4.8 | 8.0 | 35.3 | 28.0 | 12.8 | 11.1 |
| 公務員・教員 | 41 | — | 7.3 | 22.0 | 34.1 | 34.1 | 2.4 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 3.2 | 5.4 | 28.0 | 32.3 | 21.5 | 9.7 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 2.5 | 6.6 | 36.0 | 24.8 | 19.4 | 10.7 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 3.6 | 10.0 | 29.3 | 29.3 | 17.9 | 10.0 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 2.3 | 8.6 | 35.9 | 21.1 | 17.2 | 14.8 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 2.7 | 6.2 | 38.7 | 22.4 | 15.1 | 14.9 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 4.7 | 5.9 | 32.6 | 25.6 | 15.4 | 15.8 |
| 高校卒業程度 | 602 | 2.7 | 8.0 | 37.4 | 24.8 | 16.4 | 10.8 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 1.8 | 7.9 | 34.4 | 26.2 | 21.1 | 8.6 |

問16 数年前、H市内のガードレールにマジックで「同和を学校へ行かすな」と書かれていました。

問16(2) この落書きについて、あなたはどのように思いますか？

| | 総 数 | ① 許せない 差別落書き だと思う | ② この言葉が 差別だとい いきれない | ③ こんなこと を問題に すること自 体、おか しい | 回 答 な し |
|-------------|----------|----------------------------|------------------------------|---|------------------|
| | (= 100%) | | | | |
| 総 数 | 1407 | 42.5 | 14.1 | 32.5 | 10.9 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 53.8 | 9.4 | 28.3 | 8.5 |
| 30～39歳 | 132 | 48.5 | 12.1 | 31.8 | 7.6 |
| 40～49歳 | 160 | 41.3 | 18.1 | 35.0 | 5.6 |
| 50～59歳 | 135 | 33.3 | 22.2 | 34.1 | 10.4 |
| 60歳以上 | 134 | 44.8 | 9.0 | 33.6 | 12.7 |
| 女 20～29歳 | 114 | 62.3 | 9.6 | 18.4 | 9.6 |
| 30～39歳 | 183 | 41.5 | 12.6 | 31.1 | 14.8 |
| 40～49歳 | 169 | 35.5 | 15.4 | 37.3 | 11.8 |
| 50～59歳 | 127 | 37.8 | 16.5 | 35.4 | 10.2 |
| 60歳以上 | 130 | 36.2 | 13.8 | 33.8 | 16.2 |
| 〔職業別〕 | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 36.0 | 13.8 | 40.1 | 10.0 |
| 公務員・教員 | 41 | 70.7 | 12.2 | 12.2 | 4.9 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 43.0 | 14.0 | 35.5 | 7.5 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 47.1 | 14.5 | 29.3 | 9.1 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 41.4 | 12.1 | 37.9 | 8.6 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 42.2 | 18.8 | 27.3 | 11.7 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 43.2 | 12.8 | 30.0 | 14.0 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 36.7 | 16.2 | 34.0 | 13.1 |
| 高校卒業程度 | 602 | 45.0 | 13.3 | 31.2 | 10.5 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 50.9 | 10.8 | 31.5 | 6.8 |

問17 もし仮りに、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいといっている相手が同和地区出身者であった場合、あなたは？

(1) あなたは、どんな態度をとると思いますか？（お子さんがいない場合は、いると仮定して答えてください。）

| | 総 数 | ① 頭から、とんでもな いと反対する | ② 迷いながらも、結局 は反対する | ③ 迷いながらも、結局 は賛成する | ④ ためらうことなく 賛成する | 回 答 な し |
|-------------|----------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 10.5 | 37.2 | 30.5 | 9.4 | 12.4 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 6.6 | 29.2 | 27.4 | 25.5 | 11.3 |
| 30～39歳 | 132 | 9.8 | 28.0 | 40.2 | 8.3 | 13.6 |
| 40～49歳 | 160 | 9.4 | 38.1 | 32.5 | 11.3 | 8.8 |
| 50～59歳 | 135 | 12.6 | 34.8 | 34.1 | 7.4 | 11.1 |
| 60歳以上 | 134 | 7.5 | 31.3 | 30.6 | 11.2 | 19.4 |
| 女 20～29歳 | 114 | 7.0 | 39.5 | 30.7 | 11.4 | 11.4 |
| 30～39歳 | 183 | 13.7 | 40.4 | 29.5 | 7.1 | 9.3 |
| 40～49歳 | 169 | 14.2 | 45.0 | 25.4 | 4.7 | 10.7 |
| 50～59歳 | 127 | 11.8 | 44.1 | 25.2 | 7.9 | 11.0 |
| 60歳以上 | 130 | 9.2 | 35.4 | 30.8 | 4.6 | 20.0 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 10.4 | 43.6 | 27.7 | 6.6 | 11.8 |
| 公務員・教員 | 41 | 9.8 | 17.1 | 51.2 | 12.2 | 9.8 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 6.5 | 34.4 | 35.5 | 9.7 | 14.0 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 9.5 | 34.7 | 33.1 | 11.6 | 11.2 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 8.6 | 33.6 | 32.1 | 12.9 | 12.9 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 9.4 | 37.5 | 28.1 | 14.8 | 10.2 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 13.0 | 37.1 | 28.6 | 7.8 | 13.5 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 11.1 | 34.8 | 29.9 | 9.6 | 14.5 |
| 高校卒業程度 | 602 | 9.1 | 41.4 | 30.6 | 8.6 | 10.3 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 10.8 | 33.3 | 33.3 | 11.1 | 11.5 |

問17(2) あなたの親類はどんな態度をとると思いますか？ 困ったときに、相談の
てもらえるような身近な親類の方を思いうかべて、教えてください。

| | 総 数 | ① 頭から、とんでもな いと反対する | ② 迷いながらも、結局 は反対する | ③ 迷いながらも、結局 は賛成する | ④ ためらうことなく 賛成する | ⑤ わから ない | 回 答 な し |
|-------------|---------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|----------------|------------------|
| | (=100%) | | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 25.4 | 27.4 | 10.4 | 2.2 | 27.7 | 6.9 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 24.5 | 21.7 | 18.9 | 1.9 | 26.4 | 6.6 |
| 30～39歳 | 132 | 26.5 | 22.7 | 12.9 | 3.0 | 28.8 | 6.1 |
| 40～49歳 | 160 | 20.0 | 32.5 | 13.1 | 3.1 | 25.0 | 6.3 |
| 50～59歳 | 135 | 25.2 | 31.9 | 9.6 | 3.7 | 23.7 | 5.9 |
| 60歳以上 | 134 | 14.9 | 25.4 | 11.2 | 2.2 | 38.1 | 8.2 |
| 女 20～29歳 | 114 | 33.3 | 24.6 | 8.8 | — | 28.1 | 5.3 |
| 30～39歳 | 183 | 36.6 | 28.4 | 7.7 | — | 25.1 | 2.2 |
| 40～49歳 | 169 | 27.2 | 26.0 | 8.3 | 0.6 | 30.2 | 7.7 |
| 50～59歳 | 127 | 26.0 | 29.1 | 4.7 | 3.1 | 29.1 | 7.9 |
| 60歳以上 | 130 | 16.9 | 31.5 | 11.5 | 3.1 | 23.8 | 13.1 |
| 〔職業別〕 | | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 29.1 | 31.8 | 8.3 | 1.0 | 24.2 | 5.5 |
| 公務員・教員 | 41 | 26.8 | 17.1 | 12.2 | 4.9 | 29.3 | 9.8 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 18.3 | 38.7 | 11.8 | 2.2 | 22.6 | 6.5 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 24.8 | 26.9 | 14.0 | 2.9 | 27.3 | 4.1 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 22.1 | 23.6 | 15.0 | 1.4 | 27.9 | 10.0 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 19.5 | 26.6 | 9.4 | 4.7 | 35.9 | 3.9 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 27.7 | 24.9 | 8.5 | 1.8 | 28.8 | 8.2 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 21.9 | 26.6 | 9.8 | 3.7 | 28.7 | 9.2 |
| 高校卒業程度 | 602 | 25.5 | 29.7 | 9.1 | 1.7 | 29.4 | 4.8 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 31.2 | 24.7 | 14.7 | 0.7 | 22.9 | 5.7 |

問18 同和問題について、次のような意見がありました。
 あなたはどう思いますか

(1) 差別された人のくやしさは、とてもひとごととは思えない

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② そ う 思 う ど ち ら か と い え ば | ③ そ う 思 わ な い ど ち ら か と い え ば | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 43.0 | 34.9 | 6.4 | 2.9 | 12.8 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 39.6 | 42.5 | 6.6 | 4.7 | 6.6 |
| 30～39歳 | 132 | 41.7 | 37.9 | 7.6 | 4.5 | 8.3 |
| 40～49歳 | 160 | 47.5 | 33.1 | 8.1 | 3.8 | 7.5 |
| 50～59歳 | 135 | 46.7 | 29.6 | 3.7 | 3.7 | 16.3 |
| 60歳以上 | 134 | 44.8 | 30.6 | 3.7 | 1.5 | 19.4 |
| 女 20～29歳 | 114 | 40.4 | 43.0 | 12.3 | 0.9 | 3.5 |
| 30～39歳 | 183 | 41.0 | 41.0 | 6.6 | 4.4 | 7.1 |
| 40～49歳 | 169 | 40.2 | 34.9 | 7.1 | 3.0 | 14.8 |
| 50～59歳 | 127 | 44.9 | 29.9 | 5.5 | — | 19.7 |
| 60歳以上 | 130 | 41.5 | 30.8 | 3.8 | 1.5 | 22.3 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 45.0 | 33.2 | 4.8 | 4.2 | 12.8 |
| 公務員・教員 | 41 | 58.5 | 36.6 | — | 2.4 | 2.4 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 43.0 | 38.7 | 6.5 | 3.2 | 8.6 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 43.0 | 38.4 | 5.4 | 2.1 | 11.2 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 47.1 | 37.1 | 5.7 | 1.4 | 8.6 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 43.8 | 34.4 | 6.3 | 4.7 | 10.9 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 39.6 | 34.1 | 9.2 | 1.6 | 15.6 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 43.9 | 30.3 | 6.4 | 2.9 | 16.6 |
| 高校卒業程度 | 602 | 42.5 | 37.2 | 6.6 | 2.7 | 11.0 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 43.4 | 40.1 | 6.8 | 2.9 | 6.8 |

問18(2) 差別する人って、みにくい、イヤラシイひとだ

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② そ ど ち ら か と い え ば 思 う | ③ そ ど ち ら か と い え ば 思 わ な い | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|--|--|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 23.1 | 38.9 | 15.8 | 7.7 | 14.5 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 29.2 | 44.3 | 16.0 | 5.7 | 4.7 |
| 30～39歳 | 132 | 24.2 | 41.7 | 18.2 | 7.6 | 8.3 |
| 40～49歳 | 160 | 22.5 | 33.8 | 21.9 | 13.8 | 8.1 |
| 50～59歳 | 135 | 20.7 | 40.7 | 13.3 | 8.9 | 16.3 |
| 60歳以上 | 134 | 26.9 | 34.3 | 11.2 | 3.0 | 24.6 |
| 女 20～29歳 | 114 | 21.9 | 51.8 | 18.4 | 1.8 | 6.1 |
| 30～39歳 | 183 | 20.2 | 44.3 | 16.4 | 11.5 | 7.7 |
| 40～49歳 | 169 | 25.4 | 32.0 | 19.5 | 8.9 | 14.2 |
| 50～59歳 | 127 | 26.0 | 34.6 | 10.2 | 3.1 | 26.0 |
| 60歳以上 | 130 | 14.6 | 36.9 | 10.8 | 9.2 | 28.5 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 22.5 | 35.3 | 17.0 | 10.7 | 14.5 |
| 公務員・教員 | 41 | 31.7 | 41.5 | 17.1 | 2.4 | 7.3 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 24.7 | 47.3 | 11.8 | 4.3 | 11.8 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 26.4 | 38.8 | 16.9 | 6.2 | 11.6 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 19.3 | 46.4 | 15.7 | 10.7 | 7.9 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 24.2 | 33.6 | 20.3 | 10.2 | 11.7 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 21.5 | 40.0 | 14.0 | 6.2 | 18.3 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 23.8 | 32.6 | 16.0 | 8.8 | 18.9 |
| 高校卒業程度 | 602 | 22.9 | 44.0 | 14.3 | 7.6 | 11.1 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 22.2 | 41.6 | 19.7 | 5.7 | 10.8 |

問18(3) 部落差別は、いけないことだが、私とは関係のない話だ

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② ど ち ら か と い え ば そ う 思 う | ③ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|---------------|----------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 18.2 | 32.6 | 21.1 | 15.1 | 13.1 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 2 0 ～ 2 9 歳 | 106 | 6.6 | 35.8 | 33.0 | 17.9 | 6.6 |
| 3 0 ～ 3 9 歳 | 132 | 19.7 | 28.8 | 28.0 | 15.9 | 7.6 |
| 4 0 ～ 4 9 歳 | 160 | 15.6 | 31.3 | 27.5 | 16.9 | 8.8 |
| 5 0 ～ 5 9 歳 | 135 | 17.0 | 25.9 | 21.5 | 21.5 | 14.1 |
| 6 0 歳以上 | 134 | 19.4 | 31.3 | 15.7 | 11.2 | 22.4 |
| 女 2 0 ～ 2 9 歳 | 114 | 14.0 | 36.0 | 25.4 | 16.7 | 7.9 |
| 3 0 ～ 3 9 歳 | 183 | 18.0 | 40.4 | 18.0 | 16.9 | 6.6 |
| 4 0 ～ 4 9 歳 | 169 | 24.9 | 36.1 | 21.3 | 7.1 | 10.7 |
| 5 0 ～ 5 9 歳 | 127 | 23.6 | 29.1 | 11.8 | 16.5 | 18.9 |
| 6 0 歳以上 | 130 | 20.0 | 28.5 | 13.1 | 10.8 | 27.7 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 23.5 | 31.1 | 22.8 | 12.1 | 10.4 |
| 公務員・教員 | 41 | — | 17.1 | 24.4 | 51.2 | 7.3 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 12.9 | 33.3 | 28.0 | 16.1 | 9.7 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 18.6 | 31.8 | 25.6 | 14.0 | 9.9 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 18.6 | 35.7 | 19.3 | 17.1 | 9.3 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 21.1 | 38.3 | 18.0 | 9.4 | 13.3 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 17.2 | 32.7 | 18.3 | 14.6 | 17.2 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 20.1 | 32.6 | 18.9 | 10.9 | 17.6 |
| 高校卒業程度 | 602 | 18.3 | 33.2 | 22.1 | 15.4 | 11.0 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 14.3 | 31.9 | 24.7 | 22.6 | 6.5 |

問18(4) 差別をなくすために、私一人だけでもガンバリたい

| | ① そう 思う | ② どちら かとい えば そう 思う | ③ どちら かとい えば そう 思わ ない | ④ そう 思わ ない | 回 答 な し | |
|-----------------------|---------------|-----------------------------------|---|---------------------|------------------|------|
| 総 数 (=100%) | 1407 | 4.3 | 20.8 | 31.1 | 24.1 | 19.8 |
| 総 数 | 1407 | 4.3 | 20.8 | 31.1 | 24.1 | 19.8 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 4.7 | 23.6 | 36.8 | 21.7 | 13.2 |
| 30～39歳 | 132 | 0.8 | 22.0 | 37.1 | 31.8 | 8.3 |
| 40～49歳 | 160 | 5.6 | 27.5 | 25.6 | 28.8 | 12.5 |
| 50～59歳 | 135 | 7.4 | 25.2 | 28.1 | 18.5 | 20.7 |
| 60歳以上 | 134 | 4.5 | 26.9 | 19.4 | 12.7 | 36.6 |
| 女 20～29歳 | 114 | 2.6 | 16.7 | 41.2 | 23.7 | 15.8 |
| 30～39歳 | 183 | 1.1 | 14.8 | 37.7 | 35.5 | 10.9 |
| 40～49歳 | 169 | 3.6 | 14.8 | 37.9 | 26.6 | 17.2 |
| 50～59歳 | 127 | 6.3 | 19.7 | 25.2 | 21.3 | 27.6 |
| 60歳以上 | 130 | 7.7 | 18.5 | 23.1 | 16.2 | 34.6 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 2.8 | 20.8 | 29.8 | 29.4 | 17.3 |
| 公務員・教員 | 41 | 7.3 | 41.5 | 31.7 | 7.3 | 12.2 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 8.6 | 25.8 | 26.9 | 21.5 | 17.2 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 5.8 | 21.9 | 30.6 | 26.0 | 15.7 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 3.6 | 22.9 | 35.0 | 22.9 | 15.7 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 2.3 | 16.4 | 37.5 | 28.1 | 15.6 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 4.3 | 17.8 | 31.6 | 21.7 | 24.5 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 5.5 | 20.1 | 28.3 | 21.7 | 24.4 |
| 高校卒業程度 | 602 | 2.7 | 21.3 | 33.4 | 25.7 | 16.9 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 6.1 | 21.1 | 33.3 | 25.8 | 13.6 |

問18(5) 差別、差別と問題にするのは、寝た子を起こすようなものだ

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② そ う 思 う ど ち ら か と い え ば | ③ そ う 思 わ な い ど ち ら か と い え ば | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 41.3 | 29.7 | 9.5 | 7.2 | 12.3 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 27.4 | 35.8 | 15.1 | 13.2 | 8.5 |
| 30～39歳 | 132 | 32.6 | 33.3 | 15.2 | 12.9 | 6.1 |
| 40～49歳 | 160 | 46.3 | 33.8 | 7.5 | 8.1 | 4.4 |
| 50～59歳 | 135 | 45.9 | 31.1 | 4.4 | 5.9 | 12.6 |
| 60歳以上 | 134 | 39.6 | 28.4 | 7.5 | 6.0 | 18.7 |
| 女 20～29歳 | 114 | 33.3 | 29.8 | 16.7 | 11.4 | 8.8 |
| 30～39歳 | 183 | 40.4 | 27.9 | 13.1 | 8.7 | 9.8 |
| 40～49歳 | 169 | 54.4 | 27.2 | 5.9 | 2.4 | 10.1 |
| 50～59歳 | 127 | 50.4 | 19.7 | 7.9 | 4.7 | 17.3 |
| 60歳以上 | 130 | 35.4 | 33.8 | 3.8 | 2.3 | 24.6 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 47.8 | 31.1 | 5.5 | 4.2 | 11.4 |
| 公務員・教員 | 41 | 29.3 | 12.2 | 17.1 | 31.7 | 9.8 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 44.1 | 36.6 | 8.6 | 3.2 | 7.5 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 38.0 | 28.9 | 13.2 | 10.7 | 9.1 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 44.3 | 27.1 | 9.3 | 9.3 | 10.0 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 43.8 | 29.7 | 10.9 | 6.3 | 9.4 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 37.8 | 31.6 | 9.4 | 5.7 | 15.6 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 43.9 | 29.3 | 6.4 | 4.5 | 16.0 |
| 高校卒業程度 | 602 | 43.5 | 30.2 | 9.6 | 6.8 | 9.8 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 33.0 | 30.8 | 15.1 | 13.6 | 7.5 |

問18(6) 部落に対する差別は、今も根深い

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② そ う 思 う | ③ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|-----------------------|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 24.9 | 29.9 | 20.6 | 11.6 | 13.0 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 25.5 | 30.2 | 24.5 | 9.4 | 10.4 |
| 30～39歳 | 132 | 31.8 | 28.8 | 26.5 | 6.1 | 6.8 |
| 40～49歳 | 160 | 23.8 | 31.9 | 19.4 | 18.8 | 6.3 |
| 50～59歳 | 135 | 23.0 | 28.9 | 27.4 | 6.7 | 14.1 |
| 60歳以上 | 134 | 17.2 | 30.6 | 23.1 | 11.2 | 17.9 |
| 女 20～29歳 | 114 | 27.2 | 42.1 | 14.0 | 8.8 | 7.9 |
| 30～39歳 | 183 | 28.4 | 34.4 | 14.2 | 13.7 | 9.3 |
| 40～49歳 | 169 | 27.8 | 24.3 | 21.9 | 14.8 | 11.2 |
| 50～59歳 | 127 | 26.8 | 25.2 | 17.3 | 14.2 | 16.5 |
| 60歳以上 | 130 | 18.5 | 25.4 | 21.5 | 7.7 | 26.9 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 26.0 | 27.3 | 24.2 | 13.1 | 9.3 |
| 公務員・教員 | 41 | 34.1 | 39.0 | 12.2 | 9.8 | 4.9 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 23.7 | 31.2 | 24.7 | 10.8 | 9.7 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 27.7 | 30.6 | 20.2 | 9.5 | 12.0 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 27.1 | 27.1 | 26.4 | 11.4 | 7.9 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 16.4 | 35.2 | 18.8 | 18.8 | 10.9 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 24.7 | 29.5 | 18.3 | 9.8 | 17.6 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 25.2 | 26.8 | 20.5 | 11.5 | 16.0 |
| 高校卒業程度 | 602 | 24.8 | 31.7 | 21.1 | 11.8 | 10.6 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 27.2 | 34.1 | 20.4 | 10.4 | 7.9 |

問18(7) 同和地区の人自身、差別されないように行動をあらためてほしい

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② そ う 思 う ど ち ら か と い え ば | ③ そ う 思 わ な い ど ち ら か と い え ば | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 37.5 | 31.3 | 8.7 | 7.2 | 15.3 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 26.4 | 37.7 | 12.3 | 12.3 | 11.3 |
| 30～39歳 | 132 | 34.1 | 31.8 | 15.9 | 8.3 | 9.8 |
| 40～49歳 | 160 | 45.0 | 30.6 | 6.9 | 7.5 | 10.0 |
| 50～59歳 | 135 | 55.6 | 25.2 | 3.7 | 4.4 | 11.1 |
| 60歳以上 | 134 | 44.0 | 28.4 | 9.7 | 1.5 | 16.4 |
| 女 20～29歳 | 114 | 26.3 | 28.1 | 14.9 | 14.9 | 15.8 |
| 30～39歳 | 183 | 31.1 | 39.3 | 7.1 | 6.6 | 15.8 |
| 40～49歳 | 169 | 30.8 | 38.5 | 6.5 | 10.1 | 14.2 |
| 50～59歳 | 127 | 43.3 | 20.5 | 7.1 | 7.9 | 21.3 |
| 60歳以上 | 130 | 37.7 | 30.0 | 4.6 | 1.5 | 26.2 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 47.8 | 27.0 | 6.6 | 6.9 | 11.8 |
| 公務員・教員 | 41 | 24.4 | 26.8 | 19.5 | 14.6 | 14.6 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 44.1 | 32.3 | 14.0 | 7.5 | 2.2 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 33.9 | 32.6 | 9.1 | 9.9 | 14.5 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 35.7 | 33.6 | 9.3 | 5.0 | 16.4 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 40.6 | 30.5 | 4.7 | 10.2 | 14.1 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 32.3 | 33.9 | 8.7 | 5.7 | 19.5 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 43.2 | 25.8 | 6.6 | 7.2 | 17.2 |
| 高校卒業程度 | 602 | 35.2 | 35.9 | 8.6 | 7.1 | 13.1 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 31.9 | 33.3 | 13.3 | 8.2 | 13.3 |

問18(8) 同和地区の人と深くかかわることには、ためらいを感じてしまう

| | ① そう 思う | ② どちら かとい え ば そう 思う | ③ どちら かとい え ば そう 思 わ な い | ④ そう 思 わ な い | 回 答 な し | |
|-------------|---------------|---------------------------------------|---|-----------------------------|------------------|------|
| 総 数 | | | | | | |
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 11.0 | 24.2 | 30.1 | 21.3 | 13.5 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 4.7 | 23.6 | 39.6 | 24.5 | 7.5 |
| 30～39歳 | 132 | 9.1 | 28.8 | 36.4 | 17.4 | 8.3 |
| 40～49歳 | 160 | 11.3 | 22.5 | 31.9 | 26.3 | 8.1 |
| 50～59歳 | 135 | 10.4 | 20.0 | 33.3 | 23.7 | 12.6 |
| 60歳以上 | 134 | 6.0 | 19.4 | 32.8 | 19.4 | 22.4 |
| 女 20～29歳 | 114 | 8.8 | 27.2 | 30.7 | 25.4 | 7.9 |
| 30～39歳 | 183 | 16.4 | 32.8 | 25.1 | 15.8 | 9.8 |
| 40～49歳 | 169 | 16.0 | 21.9 | 27.8 | 20.7 | 13.6 |
| 50～59歳 | 127 | 11.8 | 24.4 | 23.6 | 23.6 | 16.5 |
| 60歳以上 | 130 | 10.8 | 21.5 | 22.3 | 18.5 | 26.9 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 14.2 | 21.8 | 31.1 | 22.8 | 10.0 |
| 公務員・教員 | 41 | 4.9 | 19.5 | 34.1 | 29.3 | 12.2 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 7.5 | 25.8 | 33.3 | 28.0 | 5.4 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 8.7 | 25.2 | 29.8 | 24.8 | 11.6 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 10.7 | 23.6 | 35.7 | 17.9 | 12.1 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 14.1 | 25.0 | 28.1 | 20.3 | 12.5 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 11.0 | 26.1 | 27.9 | 17.2 | 17.8 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 10.9 | 20.5 | 29.1 | 21.1 | 18.4 |
| 高校卒業程度 | 602 | 11.8 | 26.4 | 28.9 | 22.4 | 10.5 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 10.4 | 28.0 | 34.8 | 19.4 | 7.5 |

問18(9) 同和対策事業のやりかたをみていると、どちらが差別されているのかわからない

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② ど ち ら か と い え ば そ う 思 う | ③ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 38.0 | 29.6 | 8.0 | 5.7 | 18.7 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 29.2 | 31.1 | 18.9 | 6.6 | 14.2 |
| 30～39歳 | 132 | 44.7 | 25.0 | 5.3 | 9.1 | 15.9 |
| 40～49歳 | 160 | 45.0 | 35.0 | 6.9 | 4.4 | 8.8 |
| 50～59歳 | 135 | 45.9 | 25.9 | 4.4 | 10.4 | 13.3 |
| 60歳以上 | 134 | 30.6 | 32.8 | 6.0 | 7.5 | 23.1 |
| 女 20～29歳 | 114 | 28.1 | 30.7 | 8.8 | 9.6 | 22.8 |
| 30～39歳 | 183 | 36.1 | 36.6 | 9.8 | 3.3 | 14.2 |
| 40～49歳 | 169 | 42.0 | 26.6 | 6.5 | 4.1 | 20.7 |
| 50～59歳 | 127 | 40.9 | 22.8 | 8.7 | 3.9 | 23.6 |
| 60歳以上 | 130 | 32.3 | 27.7 | 6.2 | 0.8 | 33.1 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 50.5 | 28.7 | 3.8 | 2.8 | 14.2 |
| 公務員・教員 | 41 | 29.3 | 34.1 | 17.1 | 12.2 | 7.3 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 37.6 | 33.3 | 8.6 | 9.7 | 10.8 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 33.1 | 31.4 | 7.4 | 7.9 | 20.2 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 40.0 | 31.4 | 6.4 | 7.1 | 15.0 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 31.3 | 30.5 | 10.9 | 5.5 | 21.9 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 35.5 | 27.9 | 10.1 | 4.3 | 22.2 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 39.1 | 27.3 | 5.9 | 5.5 | 22.1 |
| 高校卒業程度 | 602 | 38.0 | 33.6 | 7.0 | 5.1 | 16.3 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 36.9 | 28.0 | 13.6 | 7.5 | 14.0 |

問18 (10) 同和地区のこれまでの生活状況を考えると、同和対策事業が必要だったこともよく理解できる

| | | ① そう 思う | ② どちらか かといえ ば そう 思う | ③ どちらか かといえ ば そう 思わ ない | ④ そう 思わ ない | 回 答 な し | |
|-------------|--------|---------------|------------------------------------|--|---------------------|------------------|------|
| 総数 | | 1407 | 16.7 | 33.1 | 17.2 | 9.9 | 23.1 |
| | | (=100%) | | | | | |
| 総数 | | 1407 | 16.7 | 33.1 | 17.2 | 9.9 | 23.1 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | | |
| 男 | 20～29歳 | 106 | 17.9 | 39.6 | 18.9 | 6.6 | 17.0 |
| | 30～39歳 | 132 | 16.7 | 37.9 | 14.4 | 12.9 | 18.2 |
| | 40～49歳 | 160 | 18.8 | 32.5 | 17.5 | 16.3 | 15.0 |
| | 50～59歳 | 135 | 15.6 | 37.8 | 18.5 | 11.1 | 17.0 |
| | 60歳以上 | 134 | 29.1 | 35.1 | 6.0 | 6.7 | 23.1 |
| 女 | 20～29歳 | 114 | 19.3 | 30.7 | 21.1 | 7.0 | 21.9 |
| | 30～39歳 | 183 | 9.8 | 38.8 | 20.8 | 9.3 | 21.3 |
| | 40～49歳 | 169 | 11.2 | 27.8 | 24.3 | 9.5 | 27.2 |
| | 50～59歳 | 127 | 20.5 | 27.6 | 14.2 | 8.7 | 29.1 |
| | 60歳以上 | 130 | 13.1 | 25.4 | 13.8 | 7.7 | 40.0 |
| 〔職業別〕 | | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | | 289 | 18.0 | 31.1 | 18.3 | 16.3 | 16.3 |
| 公務員・教員 | | 41 | 43.9 | 29.3 | 12.2 | 7.3 | 7.3 |
| 民間の経営者・管理職 | | 93 | 17.2 | 45.2 | 14.0 | 12.9 | 10.8 |
| 30人以上の企業の常雇 | | 242 | 15.3 | 33.5 | 17.4 | 9.5 | 24.4 |
| 29人以下の企業の常雇 | | 140 | 14.3 | 35.7 | 20.0 | 7.9 | 22.1 |
| パート・臨時雇・日雇 | | 128 | 14.8 | 33.6 | 20.3 | 7.8 | 23.4 |
| 無職(家事・通学中) | | 437 | 16.0 | 32.7 | 16.2 | 6.2 | 28.8 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | | 488 | 17.6 | 28.5 | 17.8 | 8.8 | 27.3 |
| 高校卒業程度 | | 602 | 15.9 | 37.0 | 17.8 | 9.0 | 20.3 |
| 大学・短大卒業程度 | | 279 | 18.6 | 34.8 | 15.8 | 13.3 | 17.6 |

問18(11) 同和地区の人たちの生活が、自分たちより、よくなるのは、がまんできない

| | 総 数 | ① そ う 思 う | ② ど ち ら か と い え ば そ う 思 う | ③ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い | ④ そ う 思 わ な い | 回 答 な し |
|-------------|----------|-----------------------|---|---|---------------------------------|------------------|
| | (= 100%) | | | | | |
| 総 数 | 1407 | 5.6 | 14.4 | 29.8 | 34.6 | 15.6 |
| 〔性別年齢別〕 | | | | | | |
| 男 20～29歳 | 106 | 6.6 | 16.0 | 30.2 | 36.8 | 10.4 |
| 30～39歳 | 132 | 3.0 | 22.0 | 34.1 | 33.3 | 7.6 |
| 40～49歳 | 160 | 6.9 | 13.1 | 31.3 | 38.1 | 10.6 |
| 50～59歳 | 135 | 5.2 | 17.8 | 29.6 | 34.1 | 13.3 |
| 60歳以上 | 134 | 3.0 | 9.7 | 33.6 | 33.6 | 20.1 |
| 女 20～29歳 | 114 | 4.4 | 12.3 | 35.1 | 39.5 | 8.8 |
| 30～39歳 | 183 | 7.1 | 16.4 | 30.6 | 31.1 | 14.8 |
| 40～49歳 | 169 | 10.1 | 12.4 | 25.4 | 36.1 | 16.0 |
| 50～59歳 | 127 | 3.9 | 13.4 | 19.7 | 40.2 | 22.8 |
| 60歳以上 | 130 | 4.6 | 8.5 | 30.8 | 26.9 | 29.2 |
| 〔職業別〕 | | | | | | |
| 自営業・家族従業員 | 289 | 7.6 | 15.6 | 28.4 | 37.7 | 10.7 |
| 公務員・教員 | 41 | 4.9 | 14.6 | 29.3 | 39.0 | 12.2 |
| 民間の経営者・管理職 | 93 | 3.2 | 17.2 | 39.8 | 32.3 | 7.5 |
| 30人以上の企業の常雇 | 242 | 4.1 | 14.0 | 34.3 | 34.3 | 13.2 |
| 29人以下の企業の常雇 | 140 | 3.6 | 14.3 | 32.9 | 35.7 | 13.6 |
| パート・臨時雇・日雇 | 128 | 7.0 | 14.8 | 22.7 | 38.3 | 17.2 |
| 無職(家事・通学中) | 437 | 5.9 | 12.8 | 28.8 | 31.6 | 20.8 |
| 〔教育歴別〕 | | | | | | |
| 義務教育終了程度 | 488 | 6.6 | 13.7 | 26.8 | 34.0 | 18.9 |
| 高校卒業程度 | 602 | 5.3 | 14.3 | 33.4 | 34.6 | 12.5 |
| 大学・短大卒業程度 | 279 | 5.4 | 14.0 | 29.7 | 38.0 | 12.9 |